

# Dīpaṃkaraśrījñāna の *Madhyamakopadeśa* について

望 月 海 慧

## はじめに

チベット大蔵經のテンギユル「中観部」には、Dīpaṃkaraśrījñāna (Atiśa) に帰される二つの『中観説示』が収録されている。一つは『中観説示 (*Madhyamakopadeśa*)<sup>(1)</sup>』であり、もう一つは『中観説示・開宝篋論 (*Ratnakaraṇḍoghāṭanāma-madhyamakopadeśa*)<sup>(2)</sup>』である。近年、後者に関する研究がいくつか発表されている<sup>(3)</sup>が、ここでは前者の短い方の *Madhyamakopadeśa* について考察する。

*Madhyamakopadeśa* には、Prajñāmokṣa (Shes rab thar pa) なる人物による注釈書 *Madhyamakopadeśavṛtti*<sup>(4)</sup> が伝えられている。彼がどのような人物であるのかは明らかではないが、その奥書きの情報から次のことがわかる。彼はインド人のパンディタと伝えられていることから、本注釈書は最初にサンスクリットで書かれた(説かれた)ものである。このテキストの翻訳者が彼自身と Tshul khriṃs rgyal ba であり、後者は Dīpaṃkaraśrījñāna のテキストの共訳者としても知られておいることから、この三名は同時代にチベットにおいて生存していたと言える。

*Deb ther sngon po* には、

そこ (Lha sa) において、rNgog (Legs pa'i shes rab) がお願いしたので、翻訳官 (Nag tsho) とパンディタ (Dīpaṃkaraśrījñāna) は、*rTog ge 'bar ba* (*Tarkajvāla*) を翻訳し、Atiśa (=Dīpaṃkaraśrījñāna) がその upadeśa として大小二つの *dBu ma'i mang ngag* (*Mādhyamika-upadeśa*) を著作なされた。再びまたニェタン (sNye thang) に入住なされた<sup>(5)</sup>。

と伝えている。また *Madhyamakopadeśa* の奥書きに、

ラサの大昭寺 ('Phrul snang gtsug lag khang chen) で Dīpaṃkaraśrījñāna という賢者にチベットの尊者 Legs pa'i shes rab がお願いをしてから、私 (Tshul khriṃs rgyal ba) が翻訳をした。

と偈頌の形で述べられている。これらの記述から、本テキストは著者がラサに滞在している間

に著されたものであることがわかる。さらに、Bhavya の *Tarkajvāla* のチベット訳の副産物であり、その二つの概説書の短い方であったと推測できる。ただし、二つの概説書と *Tarkajvāla* との関係は、あまりないように思える。*Ratnakaraṇḍoghāṭa* については、*Tarkajvāla* からの引用が見られるものの<sup>(6)</sup>、その中心テーマは「発菩提心」であり<sup>(8)</sup>、それは *Tarkajvāla* においてはあまり関心が払われていないからである。

### *Madhyamakopadeśa* と *Ratnakaraṇḍoghāṭa* の関係

前述のように、二つの『中観説示』は同時期に著されたと伝えられている。*Ratnakaraṇḍoghāṭa* の方にも、*Madhyamaka-upadeśa* のタイトルが付されていることから両者の内容にも多くの共通項があるように思われる。そのような視点で調査を試みてみたが、思っていた程の類似点を見つけることはできない。テキストの構成に関してみて見ると、*Madhyamakopadeśa* は「二諦説」から始まるのに対し、*Ratnakaraṇḍoghāṭa* ではその主要テーマが「発菩提心」であり、それぞれのテーマはもう一つのテキストでは排除されている。従って、*Madhyamakopadeśa* は *Ratnakaraṇḍoghāṭa* に説かれている内容を圧縮したというものではない。

では、何の関係もない二つのテキストが、たまたま同時期に著されたことから、同一のタイトルが付されたのであろうか。そこで、短い方の *Madhyamakopadeśa* に説かれている語句を、長い方の *Ratnakaraṇḍoghāṭa* に求めてみる。まず、*Madhyamakopadeśa* では最初に二諦説を示した後、三昧に入る具体的な記述として、「心地よい座具に結跏趺座をして座り<sup>(8)</sup>」と説かれている。*Ratnakaraṇḍoghāṭa* においても、テキストの冒頭箇所に「三宝の影の御前で柔らかい座具や絨毯に座り<sup>(9)</sup>」と説かれている。後者には、さらに詳細な具体的記述が続いている。完全に一致するものは「座具に座る (*stan la 'dug*)」という語句のみであるが、テキストの導入部分に、ほぼ同じことを述べる文章が見られる。

続いて三昧を通して事物を物質的存在と非物質的存在に分類した上で、後者を「心」と定義する箇所に次の記述が見られる：

色がなく、形態を離れており、虚空と同じように成立しておらず、一多を離れており、不生であり、自性により輝いているものなどであり、論理の武器により考察し、調査すれば、成立していないものと理解される。

これとほぼ同じ表現が *Ratnakaraṇḍoghāṭa* においても、先ほどの記述の直後の「心」の語義を解説する箇所において、次のように述べられている：

心には色がなく、形態がなく、自性により輝いて、本来生じるものではない<sup>(10)</sup>。

このように「心」という語を解説する際に、全く同じ説明がなされている。

同じ著者が同一時期に著したとされる二つのテキストに同じ解説が述べられていることは極

自然なことである。この部分の両方のテキストの構成は、まず三昧に入り、心を統一し、一切法が無自性であることを認識するというものであり、ほぼ同一である。ただし *Ratnakaraṇḍoghāta* は、この後に「発菩提心」などのテーマが続く。これらのことから両者の関係を考えると、まず著者にとっての「中観の概説」とは、三昧を通して一切法無自性を認識することを解説するものである。小さい方の *Madhyamakopadeśa* はこれがテキストの全内容になっており、他方 *Ratnakaraṇḍoghāta* の方は、テキストの最初の部分にこのことが述べられるものの、そこに説かれるテーマはさらに広がり、結果的には *Madhyamakopadeśa* とは異なるテキストであるような印象を与えている。

### *Madhyamakopadeśa* の構成

*Madhyamakopadeśa* は小さなテキストであるために、全体の構成を分類することは難しいが、Prajñāmokṣa による註釈に基づいて、*Madhyamakopadeśa* の構成を見てみると、次の通りである。

- 0. 帰敬偈
  - 0.1 功德を述べることでの供養
    - 0.1.1 利他の円満
      - 0.1.1.1 原因<sup>(11)</sup>
      - 0.1.1.2 結果<sup>(12)</sup>
    - 0.1.2 自利の円満<sup>(13)</sup>
  - 0.2 敬礼による供養
- 1. 概説の主要部分
  - 1.1 まとめた意味<sup>(14)</sup>
  - 1.2 支分<sup>(15)</sup>
- 2. 概説の修習次第<sup>(16)</sup>
  - 2.1 ヨーガ<sup>(17)</sup>
  - 2.2 正行<sup>(18)</sup>
  - 2.3 後行<sup>(19)</sup>

これらの区分からもわかるように、Prajñāmokṣa は冒頭に説かれている帰敬偈に対する区分を詳細にする一方で、テキストの主要部分については語句解説を行っているものの、テキスト全体の中でその語句がどのような位置にあるのかというような構成を分類することはなさない。「修習次第」を三項目あげているものの、それぞれの項目が本論のどの句にあたるのかまでの明確な記述は見られない。しかし、これらの項目から次のことが言える。すなわち、「中観の概説」とは、二諦説である。本テキストは、それを把握するための修行次第の三段階を説いた

ものである。

### *Madhyamakopadeśa* における二諦説

*Madhyamakopadeśa* の最初の部分に説かれている記述に基づいて、Dīpaṃkaraśrījñāna が本テキストにおいて二諦説をどのように説いているのかをまとめてみる。まず、全文をあげておく：

世俗においては、一切の法はこちら側で見ると、因果などの在り方すべては顕現するままに真実であるけれども、勝義或いは真実としては、その世俗の顕現するままのものだけを大きな論点で調べ、明らかにすれば、髪の毛の先端を百に裂いた量さえも取られない、と確かに理解するべきである。

ここに説かれている二諦の区分を表示すれば、次のようになる。

世俗……顕現するままに真実である

勝義……顕現するものは把握できない

世俗を「顕現するままのもの」とすることは、すでに指摘されているように<sup>(20)</sup>、瑜伽行唯識派の影響をうかがうことができる。しかし、*Satyadvayāvatāra*<sup>(21)</sup> に見られるような、世俗を正しい世俗と誤った世俗に二分する記述は見られない<sup>(22)</sup>。では、ここに説かれている世俗とは、このどちらであろうか<sup>(23)</sup>。顕現するものが因果関係により成り立つものであること、真実であるとされていること、また Prajñāmokṣa による注釈において「考察しなければ歎ばしいもの (avicāraikaramya)<sup>(24)</sup>」と説かれていることから、ここでの世俗は正しい世俗である。世俗と勝義を誤ったものと真実のものという二項対立で設定していないことから、ここに説かれていない誤った世俗という概念をその背後にあることは推測できる。そうであるのならば、本テキストに説かれている二諦説は同じ著者の *Satyadvayāvatāra* と矛盾するものではなく、彼がチベット語の翻訳者でもあるバヴヤによる *Madhyamakaratnapradīpa* の影響<sup>(25)</sup>も排除されないものとなる。

### まとめ

Dīpaṃkaraśrījñāna にとっての中観とは、二諦説であり、一切法無自性を認識することであったのは明らかである。彼にとっては、それを認識するための具体的な方法が重要であったように思える。すなわち二諦説の内容を論じるよりも、それを知覚するためのヨーガという手段とそれにより把握された内容の方に重点が置かれているように思える。そのために、他の中観論者の説く中観の説示とは異なる印象が生じている。

ただし Prajñāmokṣa による注釈書を通して読むと、*Madhyamakopadeśa* に対する印象は、多少異なって見えてくる。そこでは、先行する Śāntarakṣita のテキストからの引用も

見られ、論理学のタームも述べられている。彼がどのような人物なのかや、Dīpaṃkaraśrījñāna が自分のテキストに対する注釈書を読んでいたのかが不明であるために、この二つのテキストがどのような関係にあったのかは判断できない。もちろん Dīpaṃkaraśrījñāna のその他のテキストから、彼が Śāntarakṣita や論理学を知っていたことは明らかである。しかし *Madhyamakopadeśa* を著すにあたり、彼らの思想に対する言及は行われてはいない。

## 注記

本稿は、平成14年9月14日に大正大学で開催された日本宗教学会第61回学術大会において「アティーシャのもう一つの『中観説示』について」のタイトルで発表した際の配付資料に基づいている。ただし、最後に *Madhyamakopadeśavṛtti* のチベット語テキストを付し、加筆の上、語句表現の訂正を行った。

- (1) *dBu ma'i mang ngag ces bya ba*. Tr., by Dīpaṃkaraśrījñāna, Tshul khriṃs rgyal ba. C. Ki 97b2-98b; D1. No. 3929, Ki 95b1-96a7, D2. No. 4468, 6b5-7b3; G1. A 147b1-149a3, G2. A 181b1-182b5, G3. Gi 9a2-10a4; N1. No. 3315, A 104a7-105b4, N2. No. 3317, A 128b4-129b3, N3. No. 3372, Gi 8a4-9a2; P1. No. 5324, A 105a8-106b6, P2. No. 5326, A 132b4-133b6, P3. No. 5381, Gi 8a8-9b2. 金写版・ナルタン版・北京版には、三種類のテキストが収められている。チベット大蔵経に収録されている Dīpaṃkaraśrījñāna のスモール・テキストについては、中観部のものと彼の小部集のものとの二種類が収められているのだが、このテキストについてはもう一つの伝承があったように思える。また、本テキストについては、フランス語訳 (Salen 1986, pp.121-144)、英訳 (Sherburne 2000, pp.361-365)、ヒンディー語訳 (Sonam 2000) がすでに発表されている。
- (2) *dBu ma'i mang ngag rin po che'i za ma tog kha phye ba shes bya ba*. Tr., by Dīpaṃkaraśrījñāna, brTson 'grus seng ge, Tshul khriṃs rgyal ba. D. No. 3930, Ki 96b1-116b7, G. A 150b1-182b5, N. No. 3316, A 105b4-129b4, P. No. 5325, A 106b6-132b3.
- (3) 宮崎泉 1993, 1995, 望月海慧 1996, ツルティム・ケサン 2001.
- (4) *dBu ma'i mang ngag ces bya ba'i 'grel pa*. Tr., by Shes rab thar pa (Prajñāmokṣa), Tshul khriṃs rgyal ba. C. Ki 119b4-126b2; D. No. 3931, Ki 116b7-123b2; G. A 183b1-193a2; N. No. 3318, A 129b4-137a3; P. No. 5327, A 133b6-142a4. 本テキストにはヒンディー語訳 (Sonam 2000) がある。
- (5) 羽田野 1986, p.86.
- (6) ただし、その引用箇所は比定はできていない。
- (7) 宮崎泉 1993, 1995, 望月海慧 1996.
- (8) Tib.: stan bde ba la skyil mo krung bcas te 'dug la /
- (9) Tib. D. Ki 96b4-5: dkon mchog gsum gyi gzugs brnyan gyi spyān sngar stan 'jam

zhing 'bol ba la 'dug la /

(10) Tib. D. Ki 97a6-7: sems ni kha dog med pa / dbyibs med pa / rang bzhin gyis 'od  
gsal ba / gdod nas ma skyes pa'o //

(11) MUの「お言葉の光により」という句がこれにあたる。

(12) 「我などのすべての障害の心髄の蓮華を開花させ」という句がこれにあたる。

(13) 「最高の聖者」という句がこれにあたる。

(14) 「大乘の中観の概説はこうである」という句がこれにあたる。そのうち、「大乘」とは大智と大悲であり、「中観」とは二諦であるとする。

(15) 「世俗においては」から「理解すべきである」というまでの二諦説を説いた句がこれにあたる。

(16) 以下の区分のように、この項目を三項目に分類しているものの、MU のどこからどこまでがそれぞれに相応するのかという記述は MUV には見られない。従って、以下の分類は筆者の判断によるものである。

(17) ヨーガを通して、物質的存在と非物質的存在とが考察し難いものであることが説かれている。

(18) 前述のように、MUV には「正行」を指摘する記述はないが、ヨーガにより獲得した智慧に関する箇所がこれにあると判断する。従って、「そのように両者はいかなる自体にも成立せず」から、「そのようなものに智慧を存続させるべきである」までとなる。

(19) 「出てこようとするならば結跏趺座から起き上がる」以下の句がこれにあたる。

(20) 江島 1983, p.369.

(21) Tib. D. No. 3902, 4467, P. No. 5298, 5380. Tr. by Dīpaṃkaraśrījñāna and brTson seng ge.

(22) 江島前掲書, p.369 によると、SD の二諦の区分は次の通りになる。

勝義……分別的思惟を離れ表現不可能な、不生不滅なる法性

世俗

(i) 正しい世俗……考察されることなく単に飲ばしだけの、現実的作用の能力のあるもの

(ii) 誤れる世俗……現実的作用の能力のないもの

(23) 彼は、SD においてこの二分類を行っており、また Bhavya の MRP の訳者でもあることから、この区分を知らなかったということは考えられない。

(24) 一郷 1985, p.119 と注(3)を参照。

(25) 江島前掲書, pp.380-382.

## 『中観説示』和訳

インドの言葉で *Madhyamakopadeśa-nāma*

チベットの言葉で『中の説示』というもの

世間主に帰依をする。

言葉の光線により我<sup>(1)</sup>などのすべての障害の心髓の蓮華を開かせる最高の勝者に敬礼する。

大乘の中観の概説 (upadeśa) はこうである。すなわち、世俗においては、一切の法はこちら側で見る限り、因果などの在り方すべては顕現するままに真実である<sup>(2)</sup>けれども、勝義や真実としては、その世俗の顕現するままのものだけを大きな論点<sup>(3)</sup>で調べ、明らかにすれば、髪の毛の先端を百に裂いた量さえも取られない、と確かに理解すべきである<sup>(4)</sup>。

心地よい座具に結跏趺座をして座わり、この様にまず事物は二つである。すなわち、物質的存在と非物質的存在とである。そのうち物質的存在は原子が集まったものであり、それも部分の区別により開いて調べれば、極微さえも残らず<sup>(5)</sup>、よく顕現するものでもない。非物質的存在とは心である。それも、このように過去の心は滅し消えており、未来の心は未だ生じておらず起こっておらず、現在の心はこのようにとても考察し難い。すなわち色彩がなく、形態を離れており、虚空と同じなので成立しておらず、また一と多を離れており、生じておらず、またそれは自性により輝いているものなどであり、論理の武器により考察し調べれば、成立していないものと理解される。

そのように二はいかなる自体にも成立せず、存在していないだけであるのならば、その妙観察智自身も成立しない。例えば二本の木がお互いに擦れることにより火が生じるという縁により、二本の木が燃えなくなってしまうことに従い、何らかのものにより燃やされたその火自身も自ずと消えるように、自相と共相により一切の法が存在しないものとして成立しているだけであるのならば、その智たるものは顕現することなく、光明はいかなる自体も成立せず、沈み込みと昂りなどの過失となるものはすべてが取り除かれる。すなわち、その場合に識はいかなるものも考察せず、何も把握せず、記憶と作意のすべてが捨てられている。すなわち特徴や考察の敵や、泥棒が出てこない限り、そのようなものに識が存続させられる。

いつであれ [三昧から] 出てこようとするならば、ゆっくりと結跏趺座から起き上がる。すなわち幻のような意により身・口・意による善がどうにかして作られる。そのように尊敬し、長い間、連続して完成していれば、福分をもつ者たちがこの同じ時を喜ぶことが見られる。

すなわち一切の法は虚空輪のように、努力や苦勞なしに、自らの性質により自然に成立することが明らかに知られる。それに従って得られるので、一切の法は幻などであると知られる。いつであれ金剛のような三昧を明らかにした後には、後に得るものは存在しない。すなわち一切時にわたって等しく座っている。そのようであれば、「菩薩との差異はいかなるものがあるか」などという論理と聖教をここでは述べない。他者の利益を無量の劫にわたって集め、誓願をなす力により教化された者たちは望む通りになるであろう。聖教と論理はとてもたくさんなので、ここでは広げない。

『中の説示』という賢者ディーパンカラシュリージュニャーナによる著作を終わる。

インドのその賢者自身と、校訂の翻訳官比丘トゥルティム・ゲーワがラサの大昭寺で翻訳、校訂し、編集した。

ラサの大昭寺<sup>(6)</sup>でディーパンカラシュリージュニャーナという賢者にチベットの尊者  
レグペー・シェラブがお願いをした後、私が翻訳をしたのである。

大徳ディーパンカラシュリージュニャーナによる教義は三種の人を把握しており、迷  
乱の道には行かない、とナックツォーのツルティム・ゲーワは言う<sup>(7)</sup>。

## 訳注

(1) MUV は、「我などとは規範師自身などであって、理解しやすい」とあり、「我」をアートマンではなく、「自分」と読んでいる。

(2) SV 93-94: rgyu rkyen dag gis bskyed pas na //  
kun rdzob ji ltar snang ba grub //

(3) 「四大因」のことである。Dīpaṃkaraśrījñāna の四大因については、江島 1980, pp.239-248 を参照。

(4) SV 89-92: kun rdzob ji ltar snang ba 'di //  
rigs pas brtags na 'ga' mi rnyed //  
ma rnyed pa nyid don dam yin //  
ye nas gnas pa'i chos nyid do //

Cf. 江島 1983, p.366.

(5) G1, N1, P1 は、この後に、テキストの混乱がある。

(6) Tib.: lha sa 'phrul snang gtsug lag khang chen.

(7) 奥書きの後に付されている二偈（前半は9音節、後半は7音節からなる）については、D1, G1, N1, P1 のみにしか見られず、その他の版では欠けている。内容は、奥書きに書かれていることと同じであるが、「とツルティム・ゲーワが言う」とあることから、この偈は翻訳者によるものでもなく、それ以後に第三者により付された可能性もある。Cf. Chattopadhyaya 1967, p.455.

The Tibetan Text of the *Madhyamakopadeśa*

## // rgya gar skad du<sup>1</sup> / ma dhya ma (P1. 105b) u<sup>2</sup> pa de sha<sup>3</sup> nā ma /  
bod (N1. 104a7) skad du / dbu ma'i man ngag ces bya ba /<sup>4</sup>

'jig rten mgon po la phyag 'tshal lo<sup>5</sup> //

gang gi (P3. 8b) gsung gi 'od zer gyis //

bdag sogs rmongs pa ma lus pa'i //

snying gi padma<sup>6</sup> kha 'byed pa'i //

dam pa'i<sup>7</sup> skyes mchog de la 'dud //<sup>8</sup>

theg pa chen po dbu ma'i man ngag ni 'di yin te / kun rdzob tu<sup>9</sup> chos thams<sup>10</sup> cad  
tshu rol mthong ba'i ngor byas nas /<sup>11</sup> rgyu 'bras la sogs pa rnam par gzhag<sup>12</sup> pa thams cad  
ji ltar snang ba bzhin du bden pa yin la / don dam par<sup>13</sup> ram<sup>14</sup> yang dag par<sup>15</sup> na<sup>16</sup> kun  
rdzob ji ltar snang ba de kho na gtan tshigs chen po rnam kyis gzhigs shing bsal<sup>17</sup> na /  
skra'i rtse mo brgyar gshags<sup>18</sup> (D2. 7a) pa'i tshad tsam<sup>19</sup> kyang<sup>20</sup> bzung<sup>21</sup> du med do<sup>22</sup> zhes  
nges par khong du chud par bya'o //

stan bde ba la skyil<sup>23</sup> mo<sup>24</sup> krung<sup>25</sup> bcas te<sup>26</sup> 'dug la / 'di ltar re zhiḡ dngos po<sup>27</sup> gnyis  
te<sup>28</sup> / gzugs can dang<sup>29</sup> gzugs can ma yin pa'o // de la gzugs can rnam ni rdul phra rab

1 N2 om. *du*. 2 D2, G3, N3, P3 *mo for ma u*. 3 P2 *shā*. 4 G2, N2, P2 om /.

5 G1, G3, N3 *'tshalo*. 6 D2 *padmo*, P3 *padma ma*. 7 P2, N2 *pa*. 8 N2 /.

9 G1, N1, P1 *du*. 10 G3 *thams*. 11 P2 om /, P3 //.

12 D2, G1, G2, G3, N1, P1, P2, P3 *bzhag*. 13 D2, G3, N2, P3 *pa*.

14 G2, P2 *ram /*, D2, G3, P3 *'am*. 15 N2 om. *ram yang dag par*.

16 G1, N1, P1 *na /*. 17 D2, G2, G3, N2, N3, P2, P3 *btsal*, C *gsal*.

18 G2, N1, N2, P1, P2, P3 *bshags*. 19 C, D1 om. *tsam*. 20 D2, G3 *yang*.

21 D2, G1, G3, N1, P3 *gzung*. 22 G1, P1 *do //*. 23 N1 *bskyil*, P1 *dkyil*.

24 N1 *mor*. 25 G1, G2, N2, P1, P2 *dkrung*. 26 N1 *to*.

27 G2, G3, N2, N3, P2, P3 *po ni*. 28 G1 *he*. 29 C, D1, G3, N3, P3 *dang /*.

'dus pa<sup>1</sup> yin la / (P2. 133a) de yang phyogs cha'i<sup>2</sup> dbye<sup>3</sup> bas phye<sup>4</sup> zhing<sup>5</sup> gzhigs na /<sup>6</sup> shin tu phra ba yang lus pa<sup>7</sup> med cing<sup>8</sup> shin tu snang (N2. 129a) ba yang<sup>9</sup> med do // gzugs (N3. 8b) can ma yin pa<sup>10</sup> ni sems (G3. 9b) yin la / de yang<sup>11</sup> 'di ltar 'das pa'i sems ni 'gags shing zhig /<sup>12</sup> ma 'ongs pa'i sems ni ma skyes shing ma byung / da ltar gyi sems ni 'di ltar yang shin tu brtag<sup>13</sup> dka' ste /<sup>14</sup> kha dog med (P1. 106a) cing dbyibs dang<sup>15</sup> bral ba / nam mkha'<sup>16</sup> dang 'dra bas ma<sup>17</sup> grub pa 'am /<sup>18</sup> yang na (G2. 182a) gcig dang<sup>19</sup> du ma dang bral bas sam<sup>20</sup> /<sup>21</sup> yang na ma skyes pas sam /<sup>22</sup> yang na<sup>23</sup> de rang bzhin gyis 'od gsal ba la sogs pa<sup>24</sup> /<sup>25</sup> rigs pa'i (N1. 105a) mtshon gyis dpyad<sup>26</sup> cing gzhigs<sup>27</sup> na<sup>28</sup> ma grub par rtogs so<sup>29</sup> //

de ltar gnyis po ci'i ngo bor yang<sup>30</sup> ma grub cing med tsam na /<sup>31</sup> so sor<sup>32</sup> rtogs<sup>33</sup> (C. 98a) pa'i shes rab de nyid kyang ma grub ste / dper na shing gnyis phan tshun drud pas me byung ba'i rkyen gyis (P3. 8b) shing gnyis po<sup>34</sup> tshig cing med pa'i rjes la /<sup>35</sup> gang gis (D1. 96a) sreg par byed pa'i me de nyid kyang<sup>36</sup> rang zhi ba de bzhin du<sup>37</sup> rang dang spyi'i

- 
- 1 D2, P2, G3 pa'i.    2 G3, P3 bcu'i.    3 D1 dpya.    4 P2 phyi.    5 N2 cing.  
 6 D2, G1, G3, N1, N2, N3, P1, P2, P3 om. /.    7 G2, P2, P3 om. pa.  
 8 G1, N1, P1 cing dbyibs dang bral ba / nam mkha' (G1, N1 namkha) dang 'dra bas ma grub pa'am / yang na gcig dang du ma dang bral bas sam / de yang 'di ltar 'das pa'i sems ni 'gags shing zhig / ma 'ongs pa'i sems ni ma skyes shing ma byung / da ltar gyi sems ni 'di ltar yang shin tu brtag dka' ste / kha dog med cing.  
 9 G1, N1, P1 'ang.    10 G1, N1P1 par.    11 N1, P1 'ang.    12 P1 om. /.    13 D2 brtags.  
 14 G1, N1, P1 om. /.    15 G2, N2, P2 om. dang.    16 G1, N1, N3 namkha'.  
 17 G1, P1 sam.    18 G2, N1, N2, P1, P2 om /.    19 N1, P1 om. dang.  
 20 G2, N2, P2 ba 'am.    21 P1 om. /.    22 N2, P2 om. /.    23 P2 om. na.  
 24 G1, N1, P1 pas.    25 G2, N2, N3, P2, P3 om /.    26 G1, N1, P1 spyad.  
 27 G1, N1, P1 bzhigs.    28 G2, N2, P2 nas.    29 G3, N3 rtogso.  
 30 G1, N1, P1 om.    31 D2, G2, G3, N2, N3, P3 om. /.    32 C so.  
 33 G2, G3, N3, P2, P3 rtog.    34 D2, G1, G2, N1, N2, N3, P1, P2, P3 po nyid.  
 35 D2, N3, P3 om. /.    36 G2 kyang /.    37 D2, G1, G3, N1, N3, P1, P3 du /.

mtshan nyid kyis<sup>1</sup> chos thams cad med par grub tsam na<sup>2</sup> shes rab nyid<sup>3</sup> snang ba med cing<sup>4</sup> 'od gsal ba ci'i ngo bo<sup>5</sup> yang ma grub pas /<sup>6</sup> bying ba dang<sup>7</sup> rgod pa la sogs pa'i skyon du gyur pa<sup>8</sup> thams cad bsal<sup>9</sup> te / bar skabs der<sup>10</sup> shes pa<sup>11</sup> cir yang<sup>12</sup> mi rtog<sup>13</sup> /<sup>14</sup> cir yang mi 'dzin / dran pa dang<sup>15</sup> yid la byed pa thams cad spangs te / ji srid du mtshan ma<sup>16</sup> 'am /<sup>17</sup> rnam par rtog pa'i dgra 'am /<sup>18</sup> chom<sup>19</sup> rkun ma langs kyi bar du<sup>20</sup> de lta bu la shes pa gnas par bya'o //

gang gi tshe<sup>21</sup> ldang bar 'dod (G1. 148b) na dal bus skyil<sup>22</sup> mo krung<sup>23</sup> bshig<sup>24</sup> la langs te / sgyu ma lta bu'i yid kyis<sup>25</sup> lus dang<sup>26</sup> ngag dang yid kyis<sup>27</sup> dge ba ci nus kyis bya'o // de lta gus pa dang /<sup>28</sup> (P2. 133b) yun ring ba dang /<sup>29</sup> rgyun ma<sup>30</sup> chad par<sup>31</sup> bsgrubs<sup>32</sup> na skal ba dang ldan pa rnam kyis<sup>33</sup> tshe 'di (G2. 182b) nyid la bden pa<sup>34</sup> mthong bar 'gyur te / chos thams (G3. 10a) cad nam mkha'i<sup>35</sup> dkyil<sup>36</sup> lta bur<sup>37</sup> 'bad pa dang<sup>38</sup> rtsol ba med cing rang gi ngang gis lhun gyis<sup>39</sup> grub par mngon sum du byed do // de'i rjes las<sup>40</sup> thob pas (D2. 8b) ni<sup>41</sup> chos thams cad (N2. 129b) sgyu ma la sogs par shes so<sup>42</sup> // gang gi tshe rdo rje lta (P1. 106b) bu'i<sup>43</sup> ting nge 'dzin mngon du byas phan chad

- 
- 1 D2, G3, N3, P3 *kyi*.      2 G1, G2, N1, N2, P1, P2 *na /*.  
 3 D2, G1, N1, P1 *de nyid*, G2, G3, N2, N3, P2, P3 *nyid kyang*.      4 G1, N1, P1 *pa*.  
 5 D2, G2, N2, P2, P3 *bor*.      6 G1, G2, N1, N2, P1, P2 *om. /*.  
 7 G1, G2, N1, P1 *dang /*.      8 G3 *pa /*.      9 G2, N2, P2 *gsal*.      10 C, D1 *de*.  
 11 G1, N1, P1 *pas*.      12 P3 *om*.      13 G1, G2, N1, P1 *om. cir yang mi rtog*.  
 14 C, D1, G1, G2, N1, N2, N3, P1, P2, P3 *om. /*.      15 G1, G2 *dang /*.  
 16 N2, P2 *pa*.      17 N2, P2 *om. /*.      18 G1, N1, P1 *om. /*.      19 G2 *choms*.  
 20 G1, G2, N1, P1 *du /*.      21 G2, N2, P2 *om. tshe*.      22 G1, P1 *skyil*.  
 23 G2 *dkrung*.      24 N3 *bshigs*.      25 N1, P1 *kyis /*.      26 G1, G2 *dang /*.      27 D2 *kyi*.  
 28 D2, G2, G3, N2, N3, P2, P3 *om. /*.      29 D2, G3, N2, N3, P2, P3 *om. /*.  
 30 G3, N3, P3 *mi*.      31 G2 *pa*.      32 G2, N2, P2 *sgrub*.      33 G1, N1, P1 *kyis /*.  
 34 D1 *bde ba*.      35 G1, P1 *mkha'*, G3, N1, N3 *namkha'*.      36 G1, N1, P1 *om. dkyil*.  
 37 D2, G3, P3 *bu*.      38 G1, G2, N1, P1 *dang /*.  
 39 G2, G3, N2, N3, P2, P3 *om. lhun gyis*.      40 D2, G3, N2, N3, P2, P3 *la*.  
 41 G1 *ni /*.      42 G2, N2, P2 *shes par bya'o*.      43 G1, N1 *bu*.

ni<sup>1</sup> rjes las thob pa yang<sup>2</sup> mi mnga' ste / dus thams cad du mnyam par gzhag<sup>3</sup> pa'o // de  
lta<sup>4</sup> ma yin na byang chub sems dpa' dang<sup>5</sup> khyad par ci yod ces<sup>6</sup> bya ba la sogs pa'i rigs  
pa dang<sup>7</sup> (N3. 9a) lung 'dir mi brjod do // gzhan gyi don bskal pa grangs med par tshogs  
bsags pa dang<sup>8</sup> smon lam btab pa'i mthus (N1. 105b) gdul bya rnam ji ltar 'dod pa  
bzhin du 'gyur ro // lung dang rigs pa shin tu mang mod kyi / 'dir ma spros<sup>10</sup> (P3. 9b)  
so //

dbu ma'i man ngag ces bya ba /<sup>11</sup> <sup>12</sup>slob dpon chen po<sup>13</sup> dpal mar me mdzad ye shes  
kyis<sup>12</sup> mdzad pa rdzogs so<sup>14</sup> //<sup>15</sup>

<sup>16</sup>rgya gar (G1. 149a) gyi mkhan po de nyid dang / zhu chen gyi<sup>16</sup> lo tsā ba dge  
slong tshul khriims rgyal bas<sup>17</sup> lha sa 'phrul snang du bsgyur cing zhus te<sup>18</sup> gtan la phab  
pa'o<sup>19</sup> // //<sup>20</sup>

<sup>21</sup>ra sa 'phrul snang gtsug lag khang chen du //  
mar me (C. 98b) mdzad dpal zhes bya'i mkhas pa la //  
bod kyi rngog btsun legs pa'i shes rab kyis //  
gsol ba btab nas bdag gis bsgyur ba yin //  
gnas brtan mar me mdzad dpal gyis //  
gzhung lugs skyes bu gsum 'dzin pa //  
gol ba'i lam du mi 'gro zhes //  
nag<sup>22</sup> tsho tshul khriims rgyal bas smras<sup>23</sup> // //<sup>21</sup>

---

1 G1, N1, P1 *ni* /. 2 G1, N1, P1 *spang*. 3 D2, G2, G3, N2, N3, P2, P3 *bzhag*.  
4 G1, N1, P1 *ltar*. 5 G1, G2 *dang* /. 6 G2, N2, P2 om. *ces*. 7 G1, N2 *dang* /.  
8 G3, N2, N3, P2, P3 om. /. 9 G1, G2, N1, N2, P1, P2 om. /. 10 D2 *smos*.  
11 C, D1, D2, G2, G3, N2, N3, P2 om. /. 12 C, D1 *paṅḍi ta dī pa ka ras*.  
13 D2, G2, G3, N2, N3, P2, P3 om. *chen po*.  
14 G1, G2, N2, P1, P2 *sho*, G3 *rdzogso*. 15 P2 //. 16 C, D1 om.  
17 G2 *bas* /. 18 G1, N1 *te* /. 19 P2 *pa*. 20 P1, P2, P3 //.  
21 D2, G2, G3, N2, N3, P2, P3 om. 22 G1, G2, P1 *nags*. 23 G1, N1, P1 *ba smra*.

プラジュニャーモークシャ著  
『中観概説注』和訳

インドの言葉で、*Madhyamakopadeśavṛtti*  
チベットの言葉で、『中観概説注』

聖なる世間の自在主に敬礼する。

有情の苦しみを取り除き、白〔業〕を増益する原因である菩薩<sup>(1)</sup>に敬礼してから、『中観概説』を明らかにする。

不転倒の分別により、輪廻の泥に沈んだ者たちが概説書の道に依存してから正しく菩提を完成させるために、概説書の意味だけが解説される。

まず「お言葉の光により」などと言うことにより、功德をもつ対象に初めに帰依をする。その規範師自身は高貴なる聖者として知られており、障害の邪魔ものを滅し、解説を誓われているので意趣のあるものである。この偈頌により、二つのまとめた意味を説いている。すなわち、功德を述べることによる供養と敬礼による供養とであり、功德も利他の円満と自利と考えるべきである。利他にも原因と結果 [がある]。すなわち、「お言葉の光により」と言うことにより、原因の円満を説いている。「我などのすべての障害の心隨の蓮華を開花させ」と言うことにより、結果の円満を説いている。「最高の聖なる人」ということにより、自利の究極を説いている。「たち」とは、たくさんである。「敬礼する」とは、帰命の言葉である。

[今度は] 部分の意味が解説されるべきである。すなわち、「何れかの」とは、作者の言葉か一般の言葉であっても、他の対象を捨ててから頼るべき仏だけに入ることが明らかである。仏の功德を述べることによる供養と、敬礼による供養の時機であって、「忿怒仏母」というのと同じである。すなわち、一般の言葉でも、乳を必要とする時機に牛が忿怒母に入ることである。

「お言葉の光」と言うことにより、お身体・お言葉・お心の光も説かれている。白と赤と青と日月の光と同じである。日が昇ることで、光が大暗黒を除き、花などを開花させ、種々なる葉草と果実を熟させ、霜などの寒さの感触の害を滅し、暖かさの感触により衆生を喜ばせ、道と道でないものと明らかではないものを明らかにし、星などのその他の光を圧倒している。そのように世尊のお身体・お言葉・お心の門から不可思議なる伝承の説法の光により有情たちの無明の闇を取り除き、智慧の蓮華を開花させ、未熟な相続を成熟させ、魔などの害を滅し、一切の衆生の苦を滅し、無上の喜びをもたらし、悪見を取り除き捨てて、天などの成熟した光により制圧もなされる。さらにまた、「暗黒にすること」ということも説かれている。「光によ

り」とは、作者のなすことを示している。「開花させる」とは、行為をなすことを示している。「我など」とは規範師自身などであって<sup>(2)</sup>、理解し易い。「障害」とは、真実の意味が明らかになっていないからである。「すべての」とは、世尊の悲心ははかないものではなく、すべてに満ちており、一切のためになすことにお入りになられるからである。「心髓の蓮華を開花させる」とは、心の依処になる心髓であって、依処の名称に頼って考察されている。それ故に、「心<sup>(3)</sup>の蓮華を開花させる」と言われる。さらにまた蓮華と同じである。すなわち、蓮華を見れば、喜びが生じ、種々なる香りと色と蜂蜜などが生じる場所であり、泥から生じて泥を身につけておらず、特に素晴らしい。そのように心も、種々なる喜びへの欲求の場所であり、一緒に生じる甘露を味わい、菩提の宝の生じる場所になっており、突然の汚れをもっても、自性により輝き、清浄となる。さらにまた、

水界と金と虚空が清浄であるように、清浄であると認められる<sup>(4)</sup>。

と言うのと、

心の自性が仏であって、仏は他所に求められない。

ということによっても説かれている。「開花させる」とは蓮華を開花させることと同じである。五種の学問について智恵を広げることである。さらにまた、

何らかのものを把握し、取り出し、浄化して、他者に質問し、聞いたことを理解するその人の智恵は、太陽の光により蓮華のように開花する。

と言うのと、また、

五つの学問に長けていなければ、最高の聖者はいかなる者であっても、一切智を完成しないであろう。それ故に他の者たちは抑制に従って把握したり、自分自身で修習することで、それを彼は精進している。

ということによっても説かれている。「最高の聖なる人」とは、捨てられるべきものと智恵を円満な自体としており、三身の主体である。彼に「敬礼する」とは、帰命することであって、身口意の三善業である。

今度は、概説の主要部分として説かれるべきである。まず「大乘の中観の概説はこうである」などは、原因である聞思修の三智をまとめて示したものである。そのうち、「乗」は原因の乗と結果の乗であって、原因は諸菩薩の道である。何故ならばここから行くからである。それも、仏乗の在り方として解説したものと波羅蜜乗の在り方として解説したものであって、他のものに解説されている通りである。結果の乗は、三身自体である。何故ならば、歩き回るからである。高僧は智恵と悲心などが大きい。さらにまた、

捨が大きく、智恵が大きく、力大きい。

ということによっても説かれている。そのうち、大智とは、一切法を幻のように知り、何に対しても執着しないことである。大悲は、衆生の利益を中断しないので、「方法と智恵を結び付

ける」と言われ、諸菩薩の道である。智恵と悲心などが小さいことが、「小乗」と言われる。さらにまた、

方法がなく、智恵が離れた者は、声聞たるものに墮ちる。

ともお説きになられている。それ故に声聞は涅槃の極に墮ちて、有余依と無余依の涅槃を明らかにしてから、衆生の利益を看過している。それぞれの人たちは輪廻の極に墮ちて、種々なる苦を領受している。菩薩は、それらの極を捨てて、大智により輪廻の極に住さず、大悲により涅槃の極に住さないで、それは「二極に住さない涅槃」と言われる。さらにまた、「無住処涅槃」と言われ、

空と悲心は不分離で、いずれかの相統<sup>(5)</sup>に依存する世間主の完成した方法であって、これが一切の仏により解説されている。

と言うことも説かれている。それ故に「大乘」とは智恵と悲心である。「中」とは、一切の極端を離れ、核心の意味の中であり、さらに言葉と意味である。意味の中は、二諦であり、後に解説される。言葉の中は、中を述べる言葉であり、二極を捨てる語が設定されているだけである。その概説は、尊重されるべきである。少ない労力で大きな意味を理解するものが「概説」であって、「それを修習すべきである」と合わされ、後に説かれている。「無始より」とは、輪廻の始めと終わり<sup>(7)</sup>がないことである。事物に執着することは真実に執着することである。能取・所取などである。「二諦として設定される」とは、真実としては一と異とではないものと説かれている<sup>(7)</sup>。同一ならば、世俗が捨てられるように、勝義も捨てられるものになってしまう、世俗が種々であるように、勝義も種々になってしまう。世俗が汚れをともなっているように、勝義も汚れをともなうであろう。異なるならば、法をもつものと法自身にもならないであろう。有為の性質を制圧することにもならず、道を修習することも無意味になる。それ故に一や異と述べられることはない。詳しくは、他所に解説されている通りである。さらにまたどのようにかと言うならば、

行と界と勝義の相は、一と異より解放されている。一と異として考察されるものはいかなるものも正しい在り方ではなく、誤って入っている。

と説かれており、また貝殻の白さのように、同一であることと異なることから解放されていると説かれており、まとめた意味である。

支分が詳しく解説される。まず「世俗において一切の法は」などは、聞と思より生じた智恵により一切の法は二諦の在り方として学ぶものであると説かれている。そのうち「世俗」は迷乱の智恵であり、真実の意味における障害は他所に解説した通りである。「一切法」は、すべての意味であり、理解し易い。「こちら側で見ること」とは、真実を見ない者たちである。「考慮すれば (anurodha)<sup>(8)</sup>」は、執着の想と合わされる。「因果など」は、蘊界処などである。「顕現するまま」とは、考察しなければ喜ばしいものであって、顕現には自性がないという意

味である。さらにまた、

何であれ依存してからの諸事物は、水月のように、真実ではなく、転倒したものでもない  
と主張する者たちは邪見により奪われない<sup>(9)</sup>。

ということによっても説かれている。「諦」とは、効果的作用としての諦であり、顕現のみと  
して真実であり、分別し考察すれば、真実としては成り立たないという意味である。さらにま  
た、

論理により考察すれば、真実ではない。それとは異なるものとして真実である。それ故  
に事物が同一であることについて真実と真実でないものがどのように矛盾しようか。

ということによっても説かれている。「勝義として」とは、真実の智慧である。真実の意味に  
は欺瞞がなく、正しい結果を引き出す者が求めるので、正しいものであり、それにより考察す  
れば、いかなるものも成立しない。「世俗において顕現するままのもの」とは、外と内の事物  
である。「大きな論点」とは、理由を成立させることに欺瞞がないので、論点である。

言説の量から自性に関係することがあれば、意味により理解される。

ということによっても説かれている。「大きい」とは、煙りなどの言説の理由によることで、  
大きいものであり、それらは言説の意味に欺瞞はないものである。ここに真実の意味において  
欺瞞がなく、事物の差別をすべて制圧し、悪見のすべての魔を滅し、戯論のすべての極を排除  
しているので、大きいのである。それ故に、

すべての勝者の空性が、すべての見解を確実に取り除いている。

ということによっても説かれている。「らにより<sup>(10)</sup>」とは、四つの相であり、それも、

何であれ縁起生のは、滅がなく、生がない<sup>(11)</sup>。

というのと、

自ら<sup>(12)</sup>からではなく、他からではなく、両者からではなく、無因でもない。事物はいか  
なるものも、どこにおいても、生ずることが決してないものである<sup>(13)</sup>。

と言うのと、

多により事物は一とならず、多により多にもならない。一により多の事物となさず、一  
により一となすこともない。

と言うのと、

自身と他者とが説くこれらの事物は、真実としては、一と多の自性を離れているので、  
無自性であり、影像のようである<sup>(14)</sup>。

と言われ、合わさる部分の一つだけである。詳しくは、他所に解説されている通りである。  
「調べ、明らかにする」とは、部分の区別であって、十六や十などの部分の考察による。「髪の毛の先端を百に割いた量」とは、とても微塵の量である。「領受する」とは、聞と想の智慧により一切法を二諦の在り方として学ぶべきであると示されている。さらに有学に先行するもの

が聞と想の智恵であり、聞と想をなして修習することが、さらにまた、

多くを聞く者は、森の中で、壮年期の者たちの場所を喜ぶ。

というものと、

真実の智恵を求めることを先にして<sup>(45)</sup>

というものによっても説かれている。

今度は、概説の修習の次第が説かれている。すなわち、概説は上に解説しており、修習は、ヨーガと正行<sup>(46)</sup>と後行の三種である。「心地よい座具に結跏趺座で座り」ということにより、三昧のヨーガが説かれている。一切の衆生を捨てないという想と、無量なる大精進により大菩提を完成する心である。「まず事物は二である」とは、考察されるものである。「物質的存在と非物質的存在」は、相互に排除し、場所の相が矛盾するものなので、すべての事物を満たし、第三の集合を排除している。そのうち「物質的存在か」ということにより物質的なものが成立しないことを示しており、それも因果として認められる。そのうち原因は、極微の四大であり、それも水を多と認識することで、部分のない一は成立しない。一が成立しなければ、多自身も成立せず、多は一などの自体である。そのように一と多に属さない他の集合は成立しない。

一と多に属さない他の面をもつ事物はあり得ない。何故ならばこの二つは相互に排除して、存在するからである<sup>(47)</sup>。

とそのように解説されている通りである。そのようにまた極微が成立しなければ、結果である物質的なものも成立しない。例えば種子がなければ、芽が滅してしまうように。さらにまた、

そのように始めるものがないので、実体などが明らかになる。

ということによっても説かれている。「よく顕現することもない」と言われ、顕現は相である。縛る原因であるので、「相は生じない」という意味である。今度は、心の相を把握できないものと示すので、「非物質的存在である」という。そのうち効果的作用は刹那的であるので、刹那の部分が区別されており、さらに過去は事物が滅しているので、存在しない。存在するならば、現在のものになってしまう。未来は、事物がまだ生じていないので、存在しない。存在するならば、現在と同じで、未来のものにならないであろう。それ故に「現在の心はとても考察し難い」と説かれている。「考察し難い」とは、求めても把握できないからである。「色と形を離れている」とは、青と黄色などと、長短などを離れていることによる。「一と多<sup>(48)</sup>を離れている」とは、一と多により考察することに耐えられないことで、他所に解説した通りである。「生じていない」とは、有と無が生じないことによる。「自性により輝いている」とは、自身を考察せず、汚れを離れているので、自性により輝いている。「など」と言うことは、四句生を離れ、自と他と両者と無因などの生を離れており、真実においては有無の極を超えて、幻のようである。「論理の武器により」とは、論理たるものは武器と同じで、切り裂き、壊滅させるからである。『智恵光明莊嚴 [経]』にも、

諸仏は、いつも常に一切の諸法を思うこと得ず、法智を把握することがない者に対して敬礼することを賞賛している。

と説かれている。「成立しないと理解される」とは、ヨーガの智恵による。

「そのように二はいかなる自体にも成立しない」とは、三昧により示すことである。二とは、物質的存在と非物質的存在である。「成立しない」とは、勝義において成立しないことであって、他の考察は排除される。「その妙観察智自身も成立しない」ということにより、自身の考察が排除されている。智恵は事物の区別であるので、事物が成立していなければ、その智恵自身も成立しない。樹が成立していなければ、鹿などが排除されているように。

さらにまた、燃料が燃えた火は、燃料が燃えた後に残っていないように。

と言うのと、また上にまとめた在り方により、心が成立しなければ、心所も成立しない。太陽と光線のようなものである。

心はそのように否定されるので、心所も排除される。

と言う。「例えば二本の樹が擦れてから火が生じる縁により」などは、聖經の門から解説をしており、妙観察智が存在しないことと同じで、一切の考察は薪と同じであると説かれている。例えば、

有情の一切法は識の火の薪であると認められる。例えばそれらが開く火により焼かれれば、消滅してしまう。

と言われ、

妙観察の火の中で不善なるすべての考察は燃やされるので、

と説かれている。「自〔相〕と共相」とは、共相は空と無我などである。自相は喜びと欲望などである。「その智恵たるもの」とは、その禅定の智恵自身である。「顕現することなく」とは、自と他の考察を離れていることである。さらにまた、

いつであれ知と所知自身は見られないから、その時に相は生じないので、場所に依存する<sup>(9)</sup>ために立ち上がらない。

ということによっても説かれている。「光」は、自性により清浄であるからである。極を離れていることは、常と断を離れていることである。「どこにも成立しない」とは、一と多などはどこにも成立しないからである。「沈み込みと昂り」などのすべては、三昧の過失で、さらに沈み込みは、内なる不活発さである。昂りは、心が動くことである。「など」とは、他の相もである。「その際」とは、その禅定の際にである。「どこにも把握されず」とは、能取と所取の考察を離れているからである。「記憶と作意のすべてが捨てられる」とは、過去と未来を認識する考察が捨てられることである。ものが可愛いなどということが捨てられることである。「考察の敵や泥棒」は、敵や泥棒と同じで、三昧の宝を奪うので敵である。それ故に正知の偵察員がそれらを捨てるのである。さらにまた、例えば、

誤って行く心の象は、対象の棒杭に固定して、記憶の綱で確実に縛ってから智恵のフックで制圧すべきである<sup>(20)</sup>。

と説かれている。言説として大火を認識すれば、髪の毛の逆立ったものの区別を否定するように。それ故に二つの集まりをあつめ、二としての顕現が生起させられることは正しくない。もし「世尊は、幻の学者のように、幻を幻自身と知り、真実たるものと執着することが生じないので、彼自身は迷乱していない」というならば、その通りならば、「我を説く者たちも我を常住な我として知っており、声聞も事物を事物たるものと知っており、唯心論者も自証を勝義たるものと知っており、それ自身に迷乱はない」という言う場合に、言うままになってしまう。もし「我などの事物は所知には存在せず、量により害され、量により成立しないので、設定されただけのものに尽きているので、それを把握することは迷乱たるものになるが、幻だけとしては量により成立し、量により害されず、ありのままに知ることは迷乱にならないであろう」と言うのならば、それは正しくない。不転倒智の所知に幻のように存在するものは、どこにおいても成立しない。迷乱していない知の所知に眼翳などが存在しないように。もし世俗が顕現するままに知られないならば、一切智とならないであろうと言うのならば、その通りならば、過失のない感覚器官の直接知覚には幻の馬と眼翳などは顕現しないので、直接知覚ではないものになる。それ故に迷乱を捨てた智恵を虚偽とするのは正しくない。虚偽が顕現するならば、その智恵自身も迷乱になるから。例えば陽炎を水と認識するように。その通りでなければ、その対象自身も事物たるものになり、知はいかなるものも迷乱するものとはならない。それ故に究極の智恵に二として顕現する相はどこにも生じない。二としての顕現と迷乱の相は、名称だけが種々であるが、意味は種々ではない。經典に、例えば、

スプーティよ、物質的ものが相である。声が相である。

と言うのと、また、

仏よ、大仙人と太子たちの三昧は、相を捨てたものである。世間の者たちは相をとまっている。

などと言う通りである。もし「世俗が存在しないことを恐れる恐怖により恐れてから、智恵に世俗が顕現しない場合に顕現が明らかになるであろう」と言うのならば、それは正しくない。顕現しないものを明らかにすることにより満たされないので、不確定なものになってしまう。過失のない感覚器官の知に第二の月と眼翳などは顕現しない。その知によりそれらは明らかになるのではないように。智恵と知により考察したならば、真実と虚偽、有と無と、法はいかなるものも存在することがないので、「不住の中」と言われる。例えば、

智恵が有と無を超え、不住なるそれらのものは、深い知覚されない縁の対象として修習すべきである。

と説かれている。これにより聞と思の順序も解説されている。それより他に言説の量の対境に

すべての世俗が存在するので、排除されない。「三昧」とは、対象に心を統一することで、そのすぐ後に不可思議なる三身を成立させる原因の可能性は妨げられることがないものである。「明らかにした後に」とは、完全なる仏地を得た後は、等証菩提による智の区別が種々であっても、法界の性質として一つである。ガンガーとシンドゥーとパクシュなどの水の区別が異なっている、大海の本質として一つである。例えば、

法界に区別はないので、種姓は種々ではありえない<sup>(21)</sup>。

と言うのと、

所依の法の区別により、その区別が明らかに解説される<sup>(22)</sup>。

と説かれている。「後に得られるものはない」とは、相が生じないからである。「時」とは、前後などである。「等しく座っている」とは、法界から動かないからである。例えば、

象が座っていても等しく座っており、象が起き上がっても同じく起き上がる。

と説かれているように。「そのようであれば」とは、二としての顕現の相が生じないならばということである。「差別がない」とは、有学の道に住することと差別がなく、所取と能取の迷乱を理解することは捨てられず、等しく菩提になるので、二としての顕現の相が生じることは正しくない。例えば、

菩提は虚空の相である。何故ならば一切の相が捨てられているから。

と言うのと、

またスプーティよ、智恵に対象はない。智恵に対象があるならば、智恵を知らないであろう。

と説かれているので、相はどこに生じるのか。もし二としての顕現が生じないならば、智恵の顕現は中断し、誓願し集まりをあつめることも意味がないと考えて、「利他」などが言われている。これにより無分別の本質から色身が二つ生じ、不可思議なる衆生利益をなすことを説いている。考察することがなくても、衆生利益が生じることに矛盾はない。大海から波が生じ、太陽から光が生じ、如意宝から欲望が生じるように。他からも、先行する供養などの例えにより考察することがなくても、衆生の利益が生じると説かれている。「論理」とは、害をとまなう量である。「聖教」とは、仏のお言葉である。「述べられない」とは、多くなることを恐れている。「利他」とは、世間と出世間の意味である。「無量劫」とは、数を超えていることである。「集める」とは、原因の意味であり、福德と智恵の集まりである。「誓願をなす」とは、利他をである。「教化される者たち」とは、弟子たちであり、相続を浄化した者たちである。「望む通りに」とは、何れかの教化される者とその主体として顕現するものである。種々なる種姓のように、信解する通りになるであろう。例えば、

多くの信解した衆生に種々なる行が説かれている。深い法性を説いた後には、もし信解していなくても、責めることをなさず、不可思議なる法性を伴っている。

と説かれている。実体としては、世尊に仏身などと二として顕現する相はない。さらにまた、法界から動かず、考察されない性質に存在する。

さらにまた、例えば、

自分を物質的と見るものは、

とお説きになられている。それ故に法身は虚空の如くであり、虚空には辺境と真中、多くの色などの区別がいかなるものも存在しなくても、衆生が辺境と真中、青と黄色と多くの区別を理解する。もし「色身などを理解することがなければ、衆生の利益をなすこのことは正しくない」と言うのならば、その意味はすでに上に解説した。太陽を理解することがなくても、種々なる光が生じ、事物を明らかにする。その日輪自身は光ではない。その日輪自身が光であるならば、家の中などこの対象自身にも存在し、その輪自身も別なるものとなる。その光自身も日輪ではない。同じものならば、その虚空自身に存在し、すべての事物を照らすことにもならない。それ故にそこにある同じものが光でなくても、それから光が生じ、すべての事物を照らす。まさにそれ故に經典に、

仏は虚空のようであり、諸衆生はありのままである。

と説かれているので、不可思議である。

ディーパンカラの意図は測り難く、中の大きな意味を智恵の対象としなくても、知らないことの解説を望むことを示す目的のために、概説を明らかにすることをブラジュニャーモークシャが著した。

この善の福德を得た者が地水火風空に住する間は、説法の大宝が世間に存在してから、有情は菩提の地位を得なさい。

『中観概説註』、パンディタであるブラジュニャーモークシャによる著書を完成する。

そのインドの賢者であるブラジュニャーモークシャ自身と比丘ツルティムゲルワーが翻訳し、報告し、編集した。

## 訳注

- (1) Tib.: byang chub sems. 「菩提心」ともとれるが、Dīpaṃkaraśrījñāna のことと解釈し「菩薩 (byang chub sems dpa')」の略と読む。
- (2) MUV の著者は、チベット語の “bdag” をここでは「自分・私」と解釈し、「規範師 (=Dīpaṃkaraśrījñāna)」のこととする。MU は格助辞を欠くので、「私などにより (gis)」と「アートマンなどの (gi)」の両方の読み方が可能である。
- (3) MU でも MUV の他所でも「心髄 (snying)」とあるが、ここでは「心 (sems)」とある。
- (4) *Madhyāntavibhāga* I. 16cd. Nagao 1964, p.24:

abdhātu-kanakākāśa-śuddhivac chuddhir iṣyate /

長尾1976, p.236.

- (5) GNP は、「原因 (rgyu)」とする。  
 (6) GNP は、「終わり (tha ma)」を欠く。  
 (7) Tib.: gcig dang tha mi dad par bstan te. 「同一で異なるものとして説かれている」となる。  
 (8) Tib.: ngor byas. *Tibetan-Sanskrit Dictionary* by Lokesh Chandra, p. 615.  
 (9) *Yuktiṣaṣṭikā* 45, Lindtner 1982, p.114:

gang dag brten nas dngos po rnames //  
 chu yi zla ba lta bur ni //  
 yang dag ma yin log min par //  
 'dod pa de dag bltas mi 'phrog //

See also 瓜生津 1974, p.73, Tola 1995, p.32 and p.39.

- (10) Tib.: rnames kyis.  
 (11) *Mūlamadhyamakakārikā* の婦敬偈. 三枝 1985, pp.4-7:

anirodham anutpādam anucchedam aṣāṣvatam /  
 anekārtham anānārtham anāgamam anirgamam //  
 yaḥ pratīyasamutpādaṃ prapañcopaśamaṃ śivam /  
 deśayāmāsa sambuddhastam vande vadatām varam //

本テキストにおいてここで引用されている句は、最初のパーダと後半の偈の最初のパーダであることがわかる。しかしこの偈のチベット語訳は、

gang gis rten cing 'brel par 'byung //  
 'gag pa med pa skye med pa //  
 chad pa med pa rtag med pa //  
 tha dad don min don gcig min //  
 spros pa nyer zhi zhi bstan pa //  
 rdzogs pa'i sangs rgyas smra rnames kyī //  
 dam pa de la phyag 'tshal lo //

とあり、最初の二パーダがここに引用されていることがわかる。このことから、MUV のチベット語訳者(すなわち著者自身)はこの *Mūlamadhyamakakārikā* のチベット語訳を念頭においていた可能性がある。

- (12) Tib.: rang. *Mūlamadhyamakakārikā* Tib.: bdag.  
 (13) *Mūlamadhyamakakārikā* I.1. de Jong 1977, p.1, 三枝 1985, p.8:  
 na svato nāpi prato na dvābhyāṃ nāpy ahetukaḥ /

utpannā jātu vidyante bhāvāḥ kva cana ke cana //

- (14) *Madhyamakālaṃkāra* 1. Ichigo 1985, p.22:

bdag dang gzhan smra'i dngos 'di dag //

yang dag tu na gcig pa dang //

du ma'i rang bzhin bral ba'i phyir //

rang bzhin med de gzugs brnyan bzhin //

一郷 1985, p.120, Ichigo 1989, pp.190-191.

- (15) 本パーダは、Śāntarakṣita の *Madhyamakālaṃkāravṛtti* の末尾に説かれている偈の最初のパーダである。一郷 1985, p.193, Ichigo 1985, p.332.

- (16) GNP: dngos bzhi.

- (17) *Madhyamakālaṃkāra* 62. Ichigo 1985, p.188:

gcig dang du ma ma gtogs par //

rnam pa gzhan dang ldan pa yi //

dngos po mi rung 'di gnyis ni //

phan tshun spangs te gnas phyir ro //

一郷 1985, p.158, Ichigo 1989, pp.210-211.

- (18) GNP は、「多」を欠く。

- (19) GNP には、「堅固にする (brtan)」とある。

- (20) *Madhyamakahrdayakārikā* Ⅲ. 16. 江島 1980, pp.272-273, Lindtner 2001, p.9:

nibadhyālaṃbanastambhe smṛti-rajivā manogajaṃ /

unmārga-cāriṇaṃ kuryāt prajñāṅkuśavaśaṃ śanaih //

江島 1980, p.413, Lindtner 1998, p.127.

- (21) *Abhisamayālaṃkāra*, I. 39ab. Stcherbatsky 1929, p.6:

dharmātor asaṃbhedād gotra-bhedo na yujyate //

- (22) *Abhisamayālaṃkāra*, I. 39cd. Stcherbatsky 1929, p.6:

ādheya-dharma-bhedāt tu tad bhedaḥ pāragīyate //

## The Tibetan Text of the *Madhyamakopadeśavṛtti*

## // rgya gar skad du / ma dhya ma u pade sha br̄ tti /  
bod skad du / dbu ma'i man ngag ces bya ba'i 'grel pa /

'phags pa 'jig rten dbang phyug la phyag 'tshal lo' //  
(D. 117a) 'gro ba'i sdug bsngal sel mdzad cing //

dkar po rnam par 'phel ba'i rgyu //  
byang chub sems la phyag 'tshal nas //

dbu ma'i man ngag gsal bar bya //  
phyin ci log gi rnam rtog gis //

'khor ba'i 'dam du bying ba rnams //  
man ngag lam la rab brten nas //

(P. 134a) yang dag byang chub bsgrub<sup>2</sup> pa'i phyir //  
man ngag don tsam bshad par bya //

de la /<sup>3</sup>

*gang gi<sup>4</sup> gsung gi 'od zer gyis //*

zhes bya ba la sogs pas ni yul yon tan dang ldan pa la phyag 'tshal ba rtsom par byed  
do // de slob dpon de dag<sup>6</sup> nyid ya rabs dam pa nyid du shes par bya ba'i phyir ram / bar  
chad kyi bgegs zhi bar bya ba'i phyir ram / bshad par dam bca' ba'i phyir dgongs pa yin  
no // tshigs su bcad pa 'dis ni bsdu pa'i don gnyis bstan te / yon tan brjod pas (N. 130a)  
mchod pa dang phyag (C. 120a) 'tshal bas mchod pa dang / yon tan yang gzhan gyi don  
phun sum tshogs pa dang / rang gi don du 'du shes par bya'o // gzhan gyi don la yang  
rgyu dang 'bras bu ste / de la /<sup>7</sup>

*gang gi<sup>8</sup> gsung gi 'od zer gyis //*

zhes bya bas ni rgyu phun sum tshogs pa bstan to //

*bdag sogs rmongs pa ma lus pa'i //*

*snying gi padma kha 'byed pa //*

---

1 G 'tshalo.    2 NP sgrub.    3 GNP om. /.    4 N gis.    5 NP /.

6 GNP bdag for de dag.    7 GNP om. /.    8 GNP om. //.    9 P. /.

10 GNP om. //.

zhes bya bas ni' 'bras bu phun sum tshogs pa bstan to // dam pa'i skyes mchog ces bya bas (G. 184a) ni rang gi don mthar thug pa ston par byed do // rnam<sup>2</sup> zhes<sup>3</sup> bya ba ni du ma'o // 'dud ces bya ba ni phyag 'tshal ba'i tshig go //

yan lag gi don bshad par bya ste / gang gi zhes bya ba ni byed pa<sup>4</sup> po'i tshig gam / spyi'i sgra yin yang yul gzhan rnam par spangs nas rten sangs rgyas kho na la 'jug par gsal<sup>5</sup> te / sangs rgyas kyi yon tan brjod pas mchod pa dang / phyag 'tshal bas mchod pa'i skabs yin te / khro mo bos zhes bya ba dang 'dra ste / spyi sgra yin yang 'o ma dgos pa'i skabs su<sup>6</sup> ba khro mo la 'jug go //

gsung gi 'od zer zhes smos pas ni sku gsung thugs kyi 'od zer yang bstan no //<sup>7</sup> dkar po dang / dmar po dang / sngon po dang / nyi zla'i 'od dang 'dra ste / nyi ma shar bas (P. 134b) 'od kyi<sup>8</sup> mun nag chen po sel bar byed pa dang / me tog (D. 117b) la sogs pa kha 'byed par byed pa dang / sman dang 'bras bu sna tshogs smin par byed pa dang / ba mo la sogs pa grang ba'i reg<sup>9</sup> pa'i gdug pa zhi bar byed pa dang / dro ba'i reg pas sems can bde bār byed pa dang / lam dang lam ma yin pa dang / dngos po mi gsal ba gsal bar byed pa dang / skar ma la sogs pa'i 'od gzhan dag zil gyis gnon par byed do // de bzhin du bcom ldan 'das kyi sku gsung thugs kyi sgo nas rnam thar bsam gyis mi khyab pa'i chos bstan pa'i 'od zer gyis 'gro ba rnam kyi ma rig pa'i mun (N. 130b) pa (G. 184b) sel bar byed pa dang / blo'i padma kha 'byed par (C. 120b) byed pa dang / rgyud ma smin pa kun smin par byed pa dang / bdud la sogs pa'i gnod pa zhi bar byed pa dang / sems can thams cad kyi sdug bsngal zhi bar byed pa dang / bla na med pa'i bde<sup>12</sup> ba la 'god par byed pa dang / lta ba ngan pa sel bar byed spong par byed pa dang / lha la sogs pa'i rnam par smin pa'i 'od zil gyis gnon par yang<sup>13</sup> mdzad do // de yang mog mog por mdzad dang zhes pas kyang<sup>14</sup> bstan to // 'od zer gyis zhes bya ba ni byed pa po'i bya ba ston par byed do // 'byed par byed ces bya ba ni las su bya ba ston par byed do // bdag sogs zhes smos<sup>15</sup> pas ni slob dpon bdag la sogs pa ste go sla'o<sup>16</sup> // rmongs<sup>17</sup> pa zhes bya ba ni de kho na nyid kyi don mngon du ma gyur pa'i phyir ro // ma lus pa zhes bya bas ni bcom ldan 'das kyi thugs rje nyi tshe ba ma yin pa dang / kun la khyab pa dang thams cad kyi don mdzad par zhugs pa'i phyir ro // snying gi padma kha 'byed pa<sup>18</sup> zhes pa<sup>19</sup> ni sems (P. 135a) kyi rten du gyur pa'i snying ste / rten gyi ming brtan<sup>20</sup> pa la brtags pa<sup>21</sup> ste / de'i phyir //<sup>22</sup>

1 GNP ni /. 2 N. mam. 3 GNP shes. 4 GNP /. 5 GNP om. pa. 6 GN bsal.

7 G skabsu. 8 GNP /. 9 GNP om. //. 10 NP kyi. 11 D rig. 12 D bda.

13 GNP om. 14 GNP om. 15 GNP smon. 16 GNP bla'o. 17 N smongs.

18 CD pa //. 19 GNP bya ba. 20 NP brten. 21 GNP na. 22 GNP om. /.

*sems kyi padma kha 'byed pa //*

zhes bya ba'o // de yang padma dang 'dra ste / padma ni mthong na dga' ba bskyed pa dang / dri dang kha dog sna tshogs pa<sup>2</sup> dang / sbrang rtsi la sogs pa'i 'byung gnas yin pa dang / 'dam nas skyes kyang 'dam gyis ma gos shing khyad par<sup>3</sup> du 'phags pa'o // de bzhin du sems kyang dga' gdung (G. 185a) sna tshogs kyi<sup>4</sup> gnas yin pa dang / lhan cig skyes pa'i bdud rtsi'i ro myong bar byed (D.118a) pa dang / byang chub rin po che'i 'byung gnas su gyur pa dang / glo bur ba'i dri ma dang bcas kyang rang bzhin gyis 'od gsal zhing rnam par dag pa ste / de yang /<sup>5</sup>

chu kham gser dang nam mkha'<sup>6</sup> rnams //

dag pa bzhin du dag par 'dod /<sup>7</sup>

ces bya ba dang /

sems kyi rang bzhin sangs rgyas te //

sangs rgyas gzhan du ma tshol cig /<sup>8</sup>

ces bya bas kyang (N. 131a) bstan to // kha 'byed pa zhes bya ba ni padma kha 'byed pa dang 'dra ste /<sup>9</sup> rig pa'i (C. 121a) gnas rnam pa lnga la blo rgyas par byed do // de yang /<sup>10</sup>

gang zhiḡ 'dzin dang 'don<sup>12</sup> dang sbyong ba dang //

gzhan la 'dri zhiḡ thos pa 'dzin byed dang //

de yi blo ni nyi ma'i 'od zer gyis //

padma bzhin du rnam par kha 'byed do //

zhes bya ba dang / yang /<sup>13</sup>

rig pa'i gnas lnga dag la mkhas par ma byas na //<sup>14</sup>

'phags mchog cis kyang<sup>15</sup> thams cad mkhyen nyid 'grub<sup>16</sup> mi 'gyur /

de phyir gzhan dag tshar gcad rjes su<sup>17</sup> gzung phyir ram //

bdag nyid goms par bya phyir de la de brtson byed //<sup>18</sup>

1 GNP om. //

2 GNP om.

3 GNP om.

4 C *kyis*.

5 GNP om. /.

6 GN *namkha'*.

7 GNP /.

8 GNP om. //

9 GNP om. /.

10 P om. /.

11 GNP om. /.

12 GNP 'dod.

13 GNP om. /.

14 P /.

15 GNP *ci sems*.

16 GNP *thob*.

17 G *rjesu*.

18 GNP om. //

ces bya bas kyang bstan to // *dam pa'i skyes mchog* ces bya bas ni spangs pa dang<sup>1</sup> ye shes phun sum tshogs pa'i bdag nyid la bya ste / sku gsum gyi ngo bo nyid do<sup>2</sup> // de la 'dud ces bya ba<sup>3</sup> ni phyag 'tshal bar (P. 135b) byed pa ste<sup>4</sup> lus ngag yid gsum gyi las dge ba'o //

da ni man ngag dngos su bstan par bya ste / de la *theg pa chen po dbu ma'i man ngag ni 'di yin te<sup>5</sup>* zhes bya ba la sogs pas ni rgyu (G. 185b) thos bsam bsgom<sup>6</sup> gsum gyi shes pas mdor bsdu te ston par byed pa yin te / de la *theg pa<sup>7</sup>* ni rgyu'i theg pa dang 'bras bu'i theg pa ste / rgyu ni byang chub sems dpa' rnam kyi lam ste<sup>8</sup> 'di nas 'gro ba'i phyir ro // de yang sngags kyi theg pa'i tshul du bshad pa dang / pha rol tu phyin pa'i theg pa'i tshul du bshad pa ste / gzhan nas bshad pa bzhin no // 'bras bu'i theg pa ni sku gsum gyi bdag nyid de / bgrod par bya ba yin pa'i phyir ro // tshan po ni shes rab dang snying rje la sogs pas che ba ste<sup>9</sup> / de yang /<sup>10</sup>

gtong<sup>11</sup> ba che dang blo che ba dang mthu che ba //<sup>12</sup>

zhes bya bas kyang bstan to // de la shes rab chen pos ni chos thams cad sgyu ma lta bur shes shing ci (D. 118b) la yang ma chags pa'o // snying rje chen pos ni sems can gyi don rgyun mi gcod pas (N. 131b) thabs dang shes rab 'brel pa zhes bya ste / byang chub sems dpa' rnam kyi lam yin no // (C. 121b) shes rab dang snying rje la sogs pa chung ba ni<sup>13</sup> theg pa chung ngu<sup>14</sup> zhes bya ste / de yang /<sup>15</sup>

thabs med shes rab bral ba nyan<sup>16</sup> thos nyid<sup>17</sup> du ltung //<sup>18</sup>

zhes bya bas kyang gsungs so<sup>19</sup> // de'i phyir nyan thos ni mya ngan las 'das pa'i mthar ltung ste / phung po lhag ma dang bcas pa dang lhag ma med pa'i mya ngan las 'das pa mngon sum du byas nas sems can gyi don yal bar dor ro // so so'i skye bo rnam ni 'khor ba'i mthar<sup>20</sup> ltung ste<sup>21</sup> sdug bsngal sna tshogs nyams su myong ngo // byang chub sems dpa' ni mtha' de dag spangs te / shes rab chen pos ni 'khor ba'i mtha' la mi (P. 136a) gnas / (G. 186a) thugs rje chen pos ni mya ngan las 'das pa'i mtha' la mi gnas pas<sup>22</sup> de ni mtha' gnyis la mi gnas pa'i mya ngan las 'das pa zhes bya'o // de yang mi gnas pa'i mya ngan las 'das pa zhes bya ba dang /

---

1 G *dang* /. 2 G *nyido*. 3 GNP *pa* for *bya ba*. 4 GNP *ste* /. 5 GNP *te* /.  
 6 GP *sgom*. 7 GNP om. *theg pa*. 8 GNP *ste* /. 9 GNP *bas te*. 10 GNP om. /.  
 11 GN *stong*. 12 GP om. //. 13 GNP *ni* /. 14 C *du*. 15 GNP om. /.  
 16 N *nyin*. 17 N *nyad*. 18 GNP om. //. 19 G *gsungso*. 20 N *thar*.  
 21 N *ste* /. 22 GNP *pas* /.

stong pa snying rje dbyer med pa //

rgyud<sup>1</sup> gang la ni rab brten pa //

'jig rten mgon gyi sgrub thabs te //<sup>2</sup>

'di ni sangs rgyas kun gyis bshad //<sup>3</sup>

ces bya bas gsungs so // de'i phyir theg pa chen po ni shes rab dang snying rje yin no //  
 dbu ma ni mtha' thams cad dang bral ba dang / snying po'i don gyi<sup>4</sup> dbu ma ste / de  
 yang sgra dang don to // don gyi dbu ma ni bden pa gnyis te 'og nas bshad do // sgra'i  
 dbu ma ni dbu ma brjod pa'i sgra ste / mtha' gnyis spong ba'i tshig gdags pa tsam mo //  
 de'i man ngag ni gces spras su bya ba ste / tshegs chung ngus don chen po rtogs pas na  
 man ngag ste / de bsgom zhes bya bar sbyar te 'og nas 'chad do // thog ma med pa nas  
 zhes bya ba ni 'khor ba thog ma tha ma<sup>5</sup> med pa'o // dngos por zhen pa ni bden par zhen  
 pa'o // gzung 'dzin la sogs par ro // bden pa gnyis su bzhag go zhes bya ba ni yang dag  
 par na gcig dang tha mi dad par (N. 132a) bstan te / gcig na ni kun rdzob sngong ba  
 bzhin du don dam pa yang spong ba nyid du 'gyur la / kun rdzob tha dad pa bzhin du  
 don dam (C. 122a, D. 119a) pa yang tha dad par 'gyur ro // kun rdzob dri ma dang bcas  
 pa bzhin du don dam<sup>6</sup> pa yang dri ma dang bcas par 'gyur ro<sup>7</sup> // tha dad na ni chos can  
 dang chos nyid (G. 186b) du yang mi 'gyur la / 'dus byas kyi mtshan ma zil gyis gnon  
 par yang mi 'gyur te / lam sgom pa yang don med par 'gyur ro // de bas na de nyid dang  
 gzhan du (P. 136b) brjod du med do // rgyas par ni gzhan nas bshad pa bzhin no // de  
 yang ji skad du zhe na /

'du byed khams dang don dam mtshan nyid ni

gcig dang tha dad nyid las rnam par grol //

gcig dang tha dad nyid du gang rtog pa //

de ni tshul bzhin ma yin log zhugs yin //<sup>8</sup>

zhes gsungs pa dang / yang dung la sogs pa'i dkar po nyid bzhin du de<sup>9</sup> nyid dang gzhan  
 pa las grol bar bstan te<sup>10</sup> mdor bsdus pa'i don to //

---

1 GNP rgyu. 2 P /. 3 NP om. //. 4 GNP gyis. 5 GNP om. tha ma.  
 6 P om. dam. 7 G 'gyuro. 8 GNP om. //. 9 N om. de. 10 G te /.

yan lag rgyas par bshad de *kun rdzob tu<sup>1</sup> chos thams cad ces* bya ba la sogs pa ni thos bsam las byung ba'i shes pas chos thams cad bden pa gnyis kyi tshul du slob pa zhes bya bar ston to // de la *kun rdzob* ni 'khrul pa'i shes<sup>2</sup> pa ste / de kho na nyid kyi don la sgrib pa ni gzhan du ji ltar bshad pa bzhin no // *chos thams cad* ni ma lus pa'i don te go sla'o // *tshu rol mthong ba* ni bden pa ma mthong ba rnamso<sup>3</sup> // *ngor byas pa* ni zhen pa'i bsam pa dang sbyar ba'o // *rgyu 'bras la sogs pa* ni phung po dang khams dang skye mched la sogs pa rnamso // *ji ltar snang ba* ni ma brtags na nyams dga' ba ste / snang la rang bzhin med pa'i don te / de yang /<sup>4</sup>

gang dag rten nas dngos po rnamso //

chu yi<sup>5</sup> zla ba lta bur ni //

yang dag ma yin log min pa //

'dod (G. 187a) pa de dag lta<sup>6</sup> mi 'phrogs //

zhes bya bas kyang bstan te / *bden pa* ni don byed nus pa nyid du bden pa dang / snang ba tsam du bden pa ste / brtags shing dpyad (N. 132b) na bden par ma grub ces bya ba'i don to // de yang /<sup>7</sup>

rigs pas brtags na bden ma yin //

de las gzhan du bden pa ste //

des na dngos po gcig nyid la //

bden dang mi bden ji ltar 'gal //

zhes bya bas kyang bstan to // (P. 137a) *don dam* (D. 119b) *par* zhes bya bas<sup>10</sup> ni (C. 122b) yang dag pa'i shes rab ste / yang dag pa'i don la mi slu bas sam 'bras bu dam pa 'byin pas ni<sup>11</sup> don du gnyer ba byas pas dam pa ste / des brtags na 'ga' yang grub pa med do // *kun rdzob tu ji ltar snang ba* ni phyi dang nang gi dngos po rnamso<sup>12</sup> // *gtan tshigs chen po* zhes bya ba<sup>13</sup> ni gtan tshigs ni bsgrub pa la mi slu bas na gtan tshigs te / tha snyad kyi tshad ma las rang bzhin 'brel pa yod na<sup>14</sup> don gyis go //<sup>15</sup>

1 GNP *du*. 2 GNP *ye shes*. 3 G *rnamso*. 4 G *om. /*. 5 N *chu'i*.

6 GNP *lhas*. 7 GNP *om. //*. 8 GNP *om. /*. 9 GNP *om. //*. 10 CD *ba*.

11 G *ni /*. 12 G *rnamso*. 13 GN *pa for bya ba*. 14 G *na /*. 15 N *om. //*.

zhes ji skad bshad pa lta bu'o // de ltar yang rdul phra rab ma grub na' 'bras bu'i gzugs  
kyang mi 'grub ste /<sup>1</sup> sa bon med na myu gu 'gags' pa bzhin no'<sup>4</sup> // de yang /<sup>2</sup>

de ltar rtsom byed med pa'i phyir //<sup>6</sup> rdzas la sogs pa gsal

zhes bya bas bstan to // *shing* (G. 188b) *tu snang ba yang med do* // zhes bya ba dang /  
snang ba ni mtshan ma ste / 'ching ba'i rgyu yin pas na mtshan ma mi 'byung ngo'<sup>7</sup> zhes  
bya ba'i don to // da ni sems kyi mtshan ma ma dmigs pa nyid du ston pas<sup>8</sup> *gzugs can*  
(D.120b) *ma yin pa zhes bya* (C. 123b) ba smos so // de la don byed nus pa ni skad cig  
ma yin pas skad cig gi cha dbye bar bya ste / de yang 'das pa ni dngos po zhig pas med  
do // yod na<sup>9</sup> ni da lta nyid du 'gyur ro'<sup>10</sup> // ma 'ongs pa ni dngos po ma skyes pas med  
do'<sup>11</sup> // yod na ni da lta ba'<sup>12</sup> bzhin du ma 'ongs pa nyid du mi 'gyur ro // de'i phyir *da*  
*lta'*<sup>13</sup> *ba'i sems shin tu brtag dka'* ste zhes bya ba smos so // *brtag dka'* ba ni brtsal na  
dmigs su med pas so // *kha dog dang dbyibs dang bral* ba ni sngon po dang ser po la  
sogs pa dang / ring po dang thung du la sogs pa dang<sup>14</sup> bral bas so // *gcig dang du ma'*<sup>15</sup>  
*dang bral bas* ni gcig dang du mas brtag mi bzod de gzhan du bshad pa bzhin no // *ma*  
*skyes pa* ni yod pa dang med pa ma skyes pas so // *rang bzhin gyis 'od gsal* ba ni rang  
la mi rtog (P. 138b) pa dang / dri ma dang bral bas ni rang bzhin gyis 'od gsal ba'o //  
sogs<sup>16</sup> pa smos pa ni mu bzhi skye ba dang bral bas sam / rang dang gzhan dang gnyis ka  
dang / rgyu med pa la sogs pa skye ba dang bral ba dang<sup>17</sup> / yang dag par na yod med  
kyi mtha' las 'das te sgyu ma lta bu'o // *rigs pa'i mtshon gyis* zhes pa ni rigs pa nyid  
mtshon dang 'dra ste /<sup>18</sup> gcod dang byed cing 'jig par byed pas so // ye shes snang  
(G. 189a) ba'i rgyan las kyang /<sup>19</sup>

sangs (N. 134a) rgyas rnam kyis<sup>20</sup> nam yang ni //

gtan du chos rnam thams cad dag /

sams ma rnyed cing chos mkhyen pa //

dmigs mi mnga' la phyag 'tshal bstod //<sup>21</sup>

ces gsungs so<sup>22</sup> // *ma grub par rtogs pas* ni sbyor ba'i shes pas so //

---

1 GNP na /. 2 GP //. 3 GNP 'gag. 4 G bzhino. 5 GNP om. /.  
6 GNP /. 7 GNP ngo //. 8 GN pas /, P pas //. 9 N pa. 10 G 'gyuro.  
11 G medo. 12 N om. ba. 13 GNP ltar. 14 N om. 15 GNP om. du ma.  
16 CD stsogs. 17 GNP om. bral ba dang. 18 CD om. 19 P //. 20 GN kyi.  
21 GNP om. //. 22 G gsungso.

zhes bya ste / (N. 133a, P. 137b) sbyor ba'i cha gcig tsam mo // rgyas par ni gzhan du  
 bshad pa bzhin no // *gshegs shing bsal ba* ni phyogs cha'i dbye bas te<sup>2</sup> / cha bcu<sup>3</sup> drug  
 gam bcu la sogs pa'i brtags pas so // *skra'i rtse mo brgyar gshags pa'i tshad* ni shing tu  
 yang phra ba'i chad<sup>4</sup> do // *khong du chud pa* ni thos bsam gyi shes pas chos thams cad  
 bden pa gnyis kyi tshul du bslab par bya'o zhes bya bar ston to // de yang slob pa'i  
 (D.120a) sngon du 'gro ba ni thos (C. 123a) bsam gyi shes pa ste / thos bsam byas nas  
 sgom pa ni / de yang /<sup>5</sup>

mang du thos pa nags kyi nang dag tu //

lang tsho yol pa mams kyi gnas pa bde //<sup>6</sup>

zhes bya ba dang /

yang dag shes tshol sngon btang ste //

zhes bya bas kyang bstan pa'o //

da ni man ngag bsgom<sup>7</sup> pa'i rim pa bstan par bya ste / man (G. 188a) ngag ni gong du  
 bshad la / bsgom pa ni sbyor ba dang /<sup>8</sup> dngos gzhi<sup>9</sup> dang / rjes nam pa gsum mo // *stan*  
*bde ba la skyil<sup>10</sup> mo krung gis 'dug ste<sup>11</sup>* zhes bya bas ni ting nge 'dzin gyi sbyor ba  
 bstan te / sems can thams cad mi spong ba'i bsam pa dang / brtson 'grus chen po tshad  
 med pas<sup>12</sup> byang chub chen po bsgrub pa'i sems pa'o // *re zhig dngos po ni gnyis te* zhes  
 bya bas ni brtag<sup>13</sup> pa'o // *gzugs can dang gzugs can ma yin pa* ni phan tshun spangs te  
 gnas pa'i mtshan nyid kyi 'gal ba yin pas dngos po kun la khyab ste<sup>14</sup> phung po gsum pa  
 sel bar byed do // de la *gzugs can nam* zhes bya bas ni gzugs ma grub par ston te / de  
 yang rgyu dang 'bras bur 'dod do // de la rgyu ni 'byung ba bzhi po rdul phra rab yin la /  
 de yang chu du mar dmigs pas cha med pa'i gcig pu<sup>15</sup> mi 'grub po // gcig (P. 138a) pu<sup>16</sup>  
 ma grub na du ma nyid kyang mi 'grub ste / du ma ni gcig la sogs pa'i ngo bo yin no //  
 de ltar gcig dang du ma ma gtogs par (N. 133b) phung po gzhan yang mi 'grub ste /

gcig dang du ma ma gtogs par<sup>17</sup> //

rnam pa gzhan dang ldan pa yi<sup>18</sup> //

dngos po mi rung 'di gnyis ni //

phan tshun spangs te gnas phyir ro //

---

1 G *bzhino*.    2 GNP *ba ste*.    3 GN om. *bcu*.    4 GNP *tshad*.    5 GNP om. /.  
 6 GNP om. //.    7 GNP *sgom*.    8 GNP om. /.  
 9 GNP *bzhi*.    10 GNP *dkyil*.  
 11 GNP *ste* /.  
 12 GN *pa*.    13 GN *rtag*.    14 GNP *ste* /.  
 15 G *la*, P *pa*.  
 16 GNP om. *pu*.    17 GNP *pa*.    18 GNP *yin*.

zhes ji skad bshad pa lta bu'o // de ltar yang rdul phra rab ma grub na' 'bras bu'i gzugs  
kyang mi 'grub ste /<sup>1</sup> sa bon med na myu gu 'gags' pa bzhin no' // de yang /<sup>2</sup>

de ltar rtsom byed med pa'i phyir /<sup>3</sup> rdzas la sogs pa gsal

zhes bya bas bstan to // *shing* (G. 188b) *tu snang ba yang med do* // zhes bya ba dang /  
snang ba ni mtshan ma ste / 'ching ba'i rgyu yin pas na mtshan ma mi 'byung ngo'<sup>4</sup> zhes  
bya ba'i don to // da ni sems kyis mtshan ma ma dmigs pa nyid du ston pas<sup>5</sup> *gzugs can*  
(D.120b) *ma yin pa* zhes bya (C. 123b) ba smos so // de la don byed nus pa ni skad cig  
ma yin pas skad cig gi cha dbye bar bya ste / de yang 'das pa ni dngos po zhig pas med  
do // yod na<sup>6</sup> ni da lta nyid du 'gyur ro'<sup>10</sup> // ma 'ongs pa ni dngos po ma skyes pas med  
do<sup>11</sup> // yod na ni da lta ba'<sup>12</sup> bzhin du ma 'ongs pa nyid du mi 'gyur ro // de'i phyir *da*  
*lta'*<sup>13</sup> ba'i sems shin tu *brtag dka'* ste zhes bya ba smos so // *brtag dka'* ba ni brtsal na  
dmigs su med pas so // *kha dog dang dbyibs dang bral* ba ni sngon po dang ser po la  
sogs pa dang / ring po dang thung du la sogs pa dang<sup>14</sup> bral bas so // *gcig dang du ma'*<sup>15</sup>  
*dang bral bas* ni gcig dang du mas brtag mi bzod de gzhan du bshad pa bzhin no // *ma*  
*skyes pa* ni yod pa dang med pa ma skyes pas so // *rang bzhin gyis 'od gsal* ba ni rang  
la mi rtog (P. 138b) pa dang / dri ma dang bral bas ni rang bzhin gyis 'od gsal ba'o //  
sogs<sup>16</sup> pa smos pa ni mu bzhi skye ba dang bral bas sam / rang dang gzhan dang gnyis ka  
dang / rgyu med pa la sogs pa skye ba dang bral ba dang<sup>17</sup> / yang dag par na yod med  
kyi mtha' las 'das te sgyu ma lta bu'o // *rigs pa'i mtshon gyis* zhes pa ni rigs pa nyid  
mtshon dang 'dra ste /<sup>18</sup> gcod dang byed cing 'jig par byed pas so // ye shes snang  
(G. 189a) ba'i rgyan las kyang /<sup>19</sup>

sangs (N. 134a) rgyas rnam kyis<sup>20</sup> nam yang ni //

gtan du chos rnam thams cad dag /

sams ma rnyed cing chos mkhyen pa //

dmigs mi mnga' la phyag 'tshal bstod //<sup>21</sup>

ces gsungs so<sup>22</sup> // *ma grub par rtogs pas* ni sbyor ba'i shes pas so //

---

1 GNP na /. 2 GP //. 3 GNP 'gag. 4 G bzhino. 5 GNP om. /.  
6 GNP /. 7 GNP ngo //. 8 GN pas /, P pas //. 9 N pa. 10 G 'gyuro.  
11 G medo. 12 N om. ba. 13 GNP ltar. 14 N om. 15 GNP om. du ma.  
16 CD stsogs. 17 GNP om. bral ba dang. 18 CD om. 19 P //. 20 GN kyis.  
21 GNP om. //. 22 G gsungso.

*de ltar gnyis po*<sup>1</sup> *ci'i ngo bor yang ma grub ces bya ba ni*<sup>2</sup> *ting nge 'dzin gyis ston par byed do // gnyis po ni gzugs can dang gzugs can ma yin pa'o // ma grub pa ni don dam par ma grub pa ste / gzhan gyi rtog pa bkag pa'o //<sup>3</sup> *so sor rtog pa'i shes rab de nyid kyang mi 'grub ste*<sup>4</sup> *zhes bya bas ni bdag nyid kyi rtog pa 'gog par byed do // shes rab ni dngos po'i bye brag yin pas dngos po ma grub na shes rab de nyid kyang mi 'grub ste / shing ma grub na sha ba la sogs pa bkag pa bzhin no // (D. 121a)**

*de yang (C. 124a) bsreg*<sup>5</sup> *bya tshig pa'i me //*

*bsreg bya tshig nas mi gnas ltar //<sup>6</sup>*

*zhes pa dang / yang gong du bsdus pa'i tshul gyis sems ma grub na sems las byung ba yang mi 'grub ste / nyi ma dang 'od zer bzhin no //*

*sems ni de ltar bkag pa'i phyir //*

*sems las byung ba rnams kyang bsal //<sup>7</sup>*

*zhes pa'o // dper na shing gnyis drud pa las // me 'byung ba'i rkyen gyis zhes bya ba la sogs pa ni lung gi sgo nas 'chad par byed de / so (P. 139a) sor rtog pa'i shes rab ni med dang 'dra la / rtog pa thams cad ni bud shing dang 'dra bar gsungs te / ji skad du /*

*'gro ba'i chos kun rnam shes kyi //*

*me yi bud shing yin par 'dod //*

*de (G. 189b) dag ji bzhin rnam 'byed pa'i //*

*me yis bsregs*<sup>8</sup> *na nye*<sup>9</sup> *zhir 'gyur*<sup>10</sup> *//*

*zhes bya ba dang /*

*so sor rtog pa'i me dag tu //*

*me dge'i rtog pa kun bsreg pas //*

*zhes gsungs so*<sup>11</sup> *// rang dang spyi'i mtshan nyid ces pa ni spyi'i mtshan nyid ni*<sup>12</sup> *stong pa dang bdag med pa la sogs pa'o // rang gi mtshan nyid dga' ba dang*<sup>13</sup> *gdung ba la sogs pa'o // shes rab de nyid ni mnyam par (N. 134b) gzhag pa'i shes pa de nyid do // snang ba med pa ni bdag dang gzhan gyi rtog*<sup>14</sup> *pa dang bral ba'o // de yang //<sup>15</sup>*

1 GNP *pa*. 2 GNP *ni /*. 3 GNP *// de yang*. 4 GNP *ste /*. 5 GNP *sreg*.

6 P */*. 7 GNP *om. //*. 8 GN *bsreg*. 9 GN *nyer*. 10 NP *om. //*.

11 GNP *pas so*. 12 GNP *om*. 13 GN *dang /*, P *dang //*. 14 GNP *rtogs*.

15 GNP *om. /*.

gang tshe shes dang shes bya dag /  
 bdag nyid rjes su<sup>1</sup> mi mthong bas //  
 de tshe mtshan ma mi 'byung phyir //  
 gnas pa brten<sup>2</sup> phyir mi bzhengs so //

zhes bya bas kyang bstan to // 'od gsal ba ni rang bzhin gyis rnam par dag pas so // mtha'  
 dang bral ba ni rtag chad la sogs pa dang bral pa'o<sup>4</sup> // cir yang ma grub pa ni gcig pa<sup>5</sup>  
 dang du ma la sogs pa gang du yang ma grub pas so // bying ba dang rgod pa la sogs pa  
 thams cad ni ting nge 'dzin gyi skyon<sup>6</sup> te / de yang bying ba ni nang du rmugs pa'o //  
 rgod pa ni sems rnam par g-yengs<sup>7</sup> pa'o // sogs<sup>8</sup> pas ni mtshan ma gzhan dag kyang ngo //  
 gnas skabs der ni mnyam par gzhag pa'i gnas skabs der ro // cir yang mi 'dzin pa ni  
 gzung ba dang<sup>9</sup> 'dzin pa'i rtog pa dang bral bas so // dran pa dang<sup>10</sup> yid la byed pa thams  
 cad spangs pa ni 'das pa dang ma 'ongs pa la dmigs pa'i (C. 124b) rtog pa spangs  
 (D.121b) pa'o //<sup>11</sup> gzugs sdu<sup>12</sup> gu la sogs pa spangs (G. 190a) pa'o // rnam (P. 139b) par  
 rtog pa'i dgra 'am<sup>13</sup> chom rkun ni<sup>14</sup> dgra 'am<sup>15</sup> chom rkun dang 'dra ste / ting nge 'dzin gyi  
 nor 'phrogs<sup>16</sup> pas dgra ste / de'i phyir shes bzhin gyi bya ra bas de dag spang ba'o // de  
 yang ji skad du //<sup>17</sup>

sems gyi glang po log 'gro ba //  
 dmigs pa'i ka ba brtan po la //  
 dran pa'i thag pas nges bcings nas //  
 shes rab lcags kyus rim dbang bya //<sup>18</sup>

zhes gsungs so // tha snyad du ni me chen po dmigs na spu langs pa'i bye brag bkag pa  
 bzhin no // de'i phyir tshogs gnyis bsags pas gnyis su snang ba bskyed par mi rigs so //  
 gal te bcom ldan 'das ni sgyu ma'i mkhan po bzhin du sgyu ma la sgyu ma nyid du  
 mkhyen cing bden pa nyid du zhen pa mi 'byung bas de nyid ma 'khrul ba yin no zhe  
 na / de lta na ni bdag tu smra ba rnams kyis kyang bdag la bdag rtag pa nyid du  
 (N. 135a) shes pa dang / nyan thos kyis kyang dngos po la dngos pa nyid du shes pa  
 dang / sems tsam du smra bas kyang rang rig la don dam nyid du shes pa de nyid ma  
 'khrul ba yin no zhes brjod na ji skad du smra bar bya / gal te bdag la sogs pa ni dngos

---

1 N rjesu.      2 GNP brtan.      3 GNP om. //.      4 GNP ba'o.      5 N om.  
 6 GNP rkyen.      7 G g-yeng.      8 CD stsogs.      9 GNP dang /.      10 GNP om. dang.  
 11 DGNP /.      12 GNP sdug.      13 G 'am /.      14 CD gyi.      15 G 'am /.  
 16 GNP 'phrog.      17 D //.      18 GNP om. //.

po ni' shes bya la mi gnas te / tshad mas gnod cing tshad mas ma grub pas na<sup>2</sup> sgro  
 btags pa tsam du zad pas der 'dzin pa ni 'khrul pa nyid du' 'gyur gyi /<sup>4</sup> sgyu ma tsam du  
 ni tshad mas grub cing tshad mas mi gnod pa de ji lta ba bzhin du<sup>5</sup> shes pa ni 'khrul par<sup>6</sup>  
 mi 'gyur ro zhe na de ni (G. 190b) mi rigs te / phyin ci ma log pa'i ye shes kyi shes  
 bya<sup>7</sup> la sgyu ma lta bur gnas pa ni gang du yang ma grub ste / shes pa ma 'khrul pa'i<sup>8</sup>  
 shes bya la rab rib la sogs pa mi gnas pa bzhin no // gal te kun rdzob ji ltar snang ba  
 bzhin du ma mkhyen na thams cad mkhyen pa'i ye shes su mi 'gyur ro zhe na / de ltar  
 na ni (P. 140a) dbang po skyon med kyi mngon sum la sgyu ma'i rta dang rab rib la sogs  
 pa mi snang bas mngon sum ma yin pa nyid du 'gyur ro // de'i phyir 'khrul pa spangs pa'i  
 ye shes la brdzun pa mi rigs te / brdzun pa snang na ni ye shes de nyid kyang 'khrul pa  
 nyid du 'gyur te / smig rgyu la chur<sup>9</sup> shes pa bzhin no<sup>10</sup> // de lta ma yin na yul de  
 (C. 125a) yang dngos po nyid du 'gyur ba dang / shes pa gang (D. 122a) yang 'khrul pa  
 nyid du mi 'gyur ro // de'i phyir mthar thug pa'i ye shes la gnyis su snang ba'i mtshan  
 ma ga la 'byung / gnyis su snang ba dang mtshan ma 'khrul pa ni ming tsam tha dad kyi  
 don tha dad med do // mdo las ji skad du /

rab 'byor gzugs ni mtshan ma'o // sgra ni mtshan ma'o<sup>11</sup>

zhes bya ba dang / yang

sangs rgyas drang srong chen po dang //

rgyal<sup>12</sup> sras rnam kyi ting nge 'dzin //

mtshan ma rnam par spangs pa yin //

'jig rten rnam kyi mtshan mar<sup>13</sup> bcas //

zhes bya ba (N. 135b) la sogs pa lta bu'o // gal te kun rdzob med par dogs<sup>15</sup> pa'i 'jigs pas  
 skrag nas ye shes la kun rdzob mi<sup>16</sup> snang na snang ba gsal bar 'gyur ro<sup>17</sup> zhe na /<sup>18</sup> de ni  
 mi rigs te / mi (G. 191a) snang ba la gsal bas ma khyab pas ma nges pa nyid du 'gyur  
 ro // dbang po skyon med kyi shes pa la zla ba gnyis pa dang / rab rib la sogs pa mi  
 snang ste / shes pa des de dag gsal ba ma yin pa bzhin no // shes rab dang ye shes kyis  
 brtags na ni bden pa dang brdzun pa dang / yod pa dang<sup>19</sup> med pa dang / chos gang  
 yang<sup>20</sup> gnas pa med pas rab tu mi gnas pa'i dbu ma zhes bya ste / ji skad du /

1 GNP om. *dngos po ni*.    2 G *na /*.    3 N *du ni*.    4 GNP om */*.    5 GNP om.

6 P *bar*.    7 G *bya ba*.    8 GP *ba'i*.    9 D *chu ra*.    10 G *bzhino*.

11 P *ma'o //*.    12 P *rgyas*.    13 D *par*.    14 NP */*.    15 N *dags*.

16 GNP *ma*.    17 GNP *ro //*.    18 GNP om. */*.    19 G *dang /*.

20 GNP om. *gang yang*.

gang blo yod dang med pa las //  
 rnam par 'das shing mi gnas pa //  
 de dag zab mo dmigs med pa'i //  
 rkyen gyi don la rnam par bsgom //<sup>1</sup>

(P. 140b) zhes gsungs so // 'dis ni thos bsam gyi rim pa yang bshad pa yin no // de las  
 gzhan du tha snyad kyi tshad ma'i yul du kun rdzob thams cad gnas pa yin pas bkag pa ni  
 ma yin no // *ting nge* 'dzin ni dmigs pa la<sup>2</sup> sems rtse gcig pa ste / de ma thag tu bsam  
 gyis mi khyab pa'i sku gsum 'grub pa'i rgyu nus pa thogs pa med pa yin no<sup>3</sup> // *mngon*  
*sum du byas* phan chad ni<sup>4</sup> zhes pa ni yang dag par rdzogs pa'i sangs rgyas kyis<sup>5</sup> thob  
 phan chad ni mnyam pa nyid du byang chub pas ye shes kyi bye brag tha dad kyang chos  
 kyi dbyings kyi rang bzhin du gcig ste / gangga<sup>6</sup> dang / sindhu dang / pakṣu la sogs pa  
 chu'i bye brag tha dad kyang rgya mtsho chen po'i rang bzhin du gcig ste / ji skad du /  
 chos kyi dbyings la dbyer med phyir //

(C. 125b) rigs ni tha dad rung ma yin //<sup>6</sup>

(D. 122b) zhes pa ste /

(G. 191b) rten pa'i chos kyi bye brag gis //

de yi dbye ba rab<sup>9</sup> tu bshad //<sup>10</sup>

ces gsungs so<sup>11</sup> // *rjes thob mi mnga'* ba ni mtshan ma mi 'byung bas so // *dus* ni snga  
 phyi la sogs pa'o // *mnyam par gzhag* pa ni chos kyi dbyings las<sup>12</sup> ma g-yos pas (N. 136a)  
 so // ji skad du /

glang chen bzhugs kyang mnyam par bzhugs //

glang chen bzhengs kyang mnyam par bzhengs //

zhes gsungs pa lta bu'o // *de lta ma yin na* zhes bya ba ni gnyis su snang ba'i mtshan ma  
 'byung na'o // *khyad par med pa* ni slob ma'i lam la gnas pa dang /<sup>13</sup> *khyad par med pa*  
 dang / gzung ba dang 'dzin pa'i 'khrul rtog<sup>14</sup> ma spangs pa ste / mnyam pa nyid du byang  
 chub par mi 'gyur bas gnyis su snang ba'i mtshan ma 'byung bar mi rigs pa'o // ji skad  
 du /

byang chub nam mkha'i<sup>15</sup> mtshan nyid de<sup>16</sup> //

mtshan ma thams cad spangs (P. 141a) phyir ro //

---

1 P om. //. 2 C *las*. 3 G *yino*. 4 CD *ni* //. 5 D *kyi sa*. 6 GNP *gangga*.  
 7 P om. /. 8 GNP /. 9 G *rang*. 10 NP /. 11 GNP *pas so*. 12 GNP om.  
 13 GP om. /. 14 C *rtogs*. 15 GN *namkha'i*. 16 GNP *te*.

zhes bya ba dang /

yang rab 'byor ye shes la yul med do // ye shes la yul yod na ye shes mi shes par  
'gyur ro<sup>1</sup>

zhes gsungs pas<sup>2</sup> mtshan ma ga la 'byung / gal te gnyis su snang ba mi 'byung na ye  
shes kyi snang ba rgyun chad par 'gyur ba dang / smon lam btab pa dang / tshogs bsags  
pa yang don med do snyam pa la / *gzhan gyi don* zhes bya ba la sogs pa smos te / 'dis  
ni mi rtog pa'i ngang las gzugs sku gnyis 'byung zhing / sems can gyi don bsam gyis mi  
khyab pa mdzad par<sup>3</sup> gsungs so // rnam rtog mi mnga' yang sems (G. 192a) can gyi don  
'byung ba ni 'gal ba med do // rgya mtsho las rlabs 'byung ba dang / nyi ma las 'od  
'byung ba dang /<sup>4</sup> yid bzhin gyi nor bu las<sup>5</sup> dgos 'dod 'byung ba lta bu ste / *gzhan las*  
kyang mchod sngon la sogs pa'i dpes rtog pa mi mnga' yang sems can gyi don 'byung bar  
bstan to // *rigs pa* ni gnod pa can gyi tshad ma'o // *lung* ni sangs rgyas kyi bka'o // *mi*  
*brjod pa* ni mangs kyis dogs pa'o //<sup>6</sup> *gzhan gi don* ni 'jig rten dang 'jig rten las 'das pa'i  
don no // *bskal pa grangs med pa* ni grangs las 'das pa'o // *tshogs* ni rgyu'i don de bsod  
nams dang ye shes kyi tshogs so // *smon* (N. 136b) *lam* (C. 126a) *btab* (D. 123a) *pa* ni  
*gzhan gyi don du'o* // *gdul bya rnams* ni mig la sogs pa ste / rgyud dag pa rnams kyi'o //  
*ji ltar 'dod pa* ni gang dang<sup>7</sup> gang gis 'dul ba la de dang de'i ngo bor snang ba ste / rigs  
sna tshogs pa bzhin du mos pa ji lta<sup>8</sup> bzhin du 'gyur ba'o // ji skad du /

mos pa du ma'i sems can la //

spyod pa sna tshogs bstan pa yin //

zab mo'i chos nyid bstan pa las<sup>9</sup> //

gal te (P. 141b) mos par ma gyur kyang //

smad pa dag tu mi bya ste //<sup>10</sup>

chos nyid bsam mi khyab ldan bya //

zhes gsungs so // dngos su ni bcom ldan 'das la sangs rgyas kyi sku la sogs pa dang /  
gnyis su snang ba'i mtshan ma mi mnga' ste / de yang //<sup>11</sup>

chos kyi dbyings las ma g-yos shing //

mi rtog ngang la gnas pa'o //

1 GP ro //, N ro /. 2 GN pas /. 3 GNP pa. 4 GP om. /. 5 GP la.  
6 N /. 7 GNP om. gang dang. 8 GNP om. ji lta. 9 GNP la. 10 P /.  
11 GNP om. /.

de yang ji skad du /

gang zhig (G. 192b) nga la gzugs su mthong //<sup>1</sup>

zhes gsungs so // de'i phyir chos kyi sku nam mkha'<sup>2</sup> lta bu ste / nam mkha'<sup>3</sup> la ni mtha'  
dang dbus dang kha dog du ma la sogs pa'i tha dad pa gang yang med kyang sems can  
rnams kyis'<sup>4</sup> mtha' dang<sup>5</sup> dbus dang sngon po dang<sup>6</sup> ser po dang tha dad du mar rtog go //  
gal te gzugs kyi sku la sogs pa la rtog pa mi mnga' na sems can gyi don mdzad pa 'di  
mi rigs so zhe na / de'i don ni gong du bshad zin to // nyi ma la rnam rtog mi mnga'  
yang 'od zer sna tshogs 'byung zhing dngos po gsal bar byed do // nyi ma'i dkyil 'khor de  
nyid<sup>8</sup> 'od zer ma yin no // nyi ma'i dkyil 'khor de nyid<sup>9</sup> 'od zer yin na khang pa'i nang la  
sogs pa dang / yul 'di nyid du gnas par 'gyur la / dkyil 'khor de nyid kyang tha dad par  
'gyur ro // 'od zer de nyid kyang nyi ma'i dkyil 'khor ma yin te / de nyid yin na nam  
mkha'<sup>10</sup> de nyid du gnas par 'gyur la / dngos po kun gsal bar byed par yang mi 'gyur  
ro<sup>11</sup> // de'i phyir de la de nyid 'od zer ma yin yang de las 'od zer 'byung zhing dngos  
po kun gsal bar byed do<sup>12</sup> // de nyid kyi phyir mdo las //<sup>13</sup>

sangs rgyas nam mkha'<sup>14</sup> lta bu ste / sems (N. 137a) can rnams ni ji lta bu'o<sup>15</sup>  
zhes gsungs pas bsam gyis mi khyab po //

mar me mdzad (C. 126b) kyi<sup>16</sup> dgongs pa dpag (D. 123b) dka' zhing //

dbu ma'i don chen blo yi<sup>17</sup> yul min yang //

mi shes bshad 'dod ston pa'i don ched du //

man ngag gsal por pradznyā mokṣas byas //

(G. 193a) dge ba 'di yi<sup>18</sup> bsod nams gang thob des //

sa chu me rlung nam mkha'<sup>19</sup> gnas kyi bar //

bstan pa rin chen 'jig rten gnas gyur nas //

'gro ba byang chub go 'phang thob par shog /

dbu ma'i man ngag gi 'grel pa paṇḍi ta shes rab thar pas mdzad pa rdzogs so<sup>20</sup> // //

rgya gar gyi mkhan po shes rab thar pa de nyid dang / dge slong tshul khriims rgyal  
bas bsgyur cing zhus te gtan la phab pa'o // //

1 NP /. 2 GN *namkha'*. 3 GN *namkha'*. 4 GN *kyi*. 5 GNP om. *dang*.

6 N *dang* /. 7 GNP /. 8 N om. 9 N om. 10 GN *namkha'*. 11 G 'gyuro.

12 G *byedo*. 13 CDN om. /. 14 GN *namkha'*. 15 GNP *bu'o* //. 16 N *kyis*.

17 GP *blo'i*. 18 GNP *yi*s. 19 GN *namkha'*. 20 GNP *s-ho*.

## 略号と文献表 (Mochizuki 2002d も参照)

- 江島 1980 江島恵教『中観思想の展開』春秋社.
- 江島 1983 江島恵教「アティーンシャの二真理説」壬生台舜編『龍樹教学の研究』大蔵出版, pp. 359-391.
- 一郷 1985 一郷正道『中観荘厳論の研究』文栄堂.
- Ichigo 1985 Masamichi Ichigo, *Madhyamakālaṃkāra*. Kyoto.
- Ichigo 1989 Masamichi Ichigo, Śāntarakṣita's *Madhyamakālaṃkāra*. in *Studies in the Literature of the Great Vehicle*, ed. Luis O. Gómez and Jonathan A. Silk. Ann Arbor, pp.141-240.
- de Jong 1977 J. W. de Jong, *Nāgārjuna: Mūlamadhyamakakārikāh*. Madras.
- Lindtner 1982 Christian Lindtner, *Nagarjuniana: Studies in the Writings and Philosophy of Nāgārjuna*. Copenhagen.
- Lindtner 1998 Id., *Mahāyāna: Den senere indiske buddhisme*. Copenhagen.
- Lindtner 2001 Id., *Madhyamakahrdayam of Bhavya*. Chennai.
- Mochizuki 2002d Kaie Mochizuki, *A Study of the Mahāsūtrasamuccaya of Dīpaṃkaraśrījñāna*. Minobusan University.
- MRP Bhavya, *Madhyamakaratnapradīpa*. Tib. D. No. 3854, P. No. 5854.
- MU Dīpaṃkaraśrījñāna, *Madhyamakopadeśa*. Tib. D. No. 3929, 4468, P. No. 5324, 5326, 5381. Sonam 2000, pp.65-70.
- MUV Prajñānokṣa, *Madhyamakopadeśavṛtti*. Tib. D. No. 3931, P. No. 5326. Sonam 2000, pp.71-89.
- Nagao 1964 Gajin M. Nagao, *Madhyāntavibhāga-bhāṣya*. 鈴木学術財団.
- 長尾 1976 長尾雅人「中辺分別論」梶山雄一・梶山雄一・荒牧典俊訳『大乘仏典15 世親論集』中央公論社, pp.191-358.
- RK Dīpaṃkaraśrījñāna, *Ratnakaraṇḍoghāṭa-nāma-madhyamaka-upadeśa*. Tib. D. No. 3930, P. No. 5325.
- 三枝 1985 三枝充恵『中論偈頌総覧』第三文明社.
- SD Dīpaṃkaraśrījñāna, *Satyadvayāvātāra*. Tib. D. No. 3902, 4467, P. No. 5298, 5380. Sonam 2000, pp.49-58.
- Sonam 2000 Sonam Raptan, *Satyadvayāvātārādigranthacatuṣṭa : Four Treatises-Entering into the Two Truths etc. of Ācārya Dīpaṃkaraśrījñāna*. Sarnath.
- Stcherbatsky 1929 Th. Stcherbatsky and E. Obermiller, *Abhisamayālaṅkāraprajñā-*

*pāramitā-upadeśa-sāstra*. Bibliotheca Buddhica. XXIII. repr.

Tokyo 1977.

Tola 1995

Fernando Tola and Carmen Dragonetti, *On Voidness: A Study on Buddhist Nihilism*. Delhi.

瓜生津 1974

瓜生津隆真「六十頌如理論」梶山雄一・瓜生津隆真訳『大乘仏典14 龍樹論集』中央公論社, pp.5-88.

(本研究は平成14年度日本学術振興会科学研究費「基盤研究(C)(2)」による研究成果の一部である)